

## 第4回市民委員会 第1分科会 討議概要

【テーマ】コミュニティ～自分の暮らす地域を好きになるには～

平成27年9月23日 午後2時55分～午後5時15分

場所：入札室

出席委員：9人出席／17人中

コーディネーター：伊藤伸

ナビゲーター：原田謙介

事務局：企画課：(國吉・後藤)

担当課：市民課…樋口コミュニティ係長、防災室…成田主査

介護福祉課…大塚課長、立石高齢者支援係長

### 【各担当の事務及び資料の説明】

防災)・今年度実施した防災訓練の一覧表の説明

・総合防災訓練から地域ごとの防災訓練に転換した理由と、実施した訓練の説明

介護)・内部組織の事務分掌の説明(地域包括支援センターなど)

・高齢者の生活を支援する関係で、事務に対応する相談事例の説明(認知症など)

委) 自主防災組織の数は。

防災) 57カ所ある。

委) 自主防災組織がない自治会でも訓練しているのか。

防災) 自主防災組織かどうかで区別していないが、実施するのは難しいと思う。

委) 自主防災組織を立ち上げていないところに関する見解は。

防災) 自主的な組織のため、立ち上げの呼びかけはしている。

コ) より市民が主体的に動く必要がある。本日の討議進行として、前回の話の延長と、防災・高齢者の話に取りかかりたい。

### 【人口ビジョンについて】

コ) 設定した35,000人に対する話よりも、人口減少を前提とした運営を考えるべきだ。人口減少に対する財政への影響を考えるべきだという意見が前回出た。今回は、その方向性を踏まえて意見を求めたい。6パターンあるシミュレーションについては、上を目指す考えと、あくまで選択肢や振れ幅と捉えて考える方法もある。なお、地域別では、青堀を含む富津中学校区は微減に留まるが、他は減少が大きい。

委) こうした資料をいただいても、人口ビジョンを設定する根拠を私たちはよく

- 知らないので、議論のしようがないのではないか。
- ナ) 具体的な根拠はここにはないが、今後のイメージはできるし、人口が減るのは間違いない。それに対する地域コミュニティの維持などに視点をあててはどうか。
- 委) 財政が厳しいかもわからないが、今討論していることと、実際の事業の見直し内容を比べると、ギャップを感じてしまう。
- コ) どこかに比重をかければ他方は減ってしまうかもしれない。しかし、高齢化が進行しても、先ほどの防災の例のように、市がノウハウをつなぐ役になることでコストをかけずに伝達できるなど工夫はできる。
- 委) 富津を広めるために色々やりたいが、そのための予算がないのでは矛盾している。また、第三空港や湾口道路は予算をなくしたのに、今も掲げているのはどうかと思う。それなら「富津がんばろう」とか「富津市を守ろう」とかの方がいいのではないか。
- 委) 飛行場を持ってくるなら自衛隊を誘致してはどうか。補助金などで財政が潤うし人が増えるはずだ。
- ナ) 現状を鑑みての判断だと思うので、こうした議論もいいことだと思う。また、予算がかからない分野でも新しい取り組みができるのではないかと思う。
- 委) 自衛隊は木更津にあるし、反対運動など別の問題がありそうだ。
- 委) 若い人達に定住してもらうにはどうするかを考えると、子育てや結婚などは別の分科会でもやっているが、若い女性の意見を取り入れる場を設けてはどうか。子育て世代は全国で奪い合いに近い状態だ。

#### 【地域コミュニティについて】

- 委) 107ある区に女性の区長はいるか。
- 市) 現在はいない。
- 委) それであれば、副区長に女性を任命してはどうか。うちの近くでは女性だけの会が結構組織されているので、そうしたものが大事ではないか。
- 委) 過去には女性の区長がいたことがあると聞いている。
- 市) 副区長などは区ごとの取り決めであり、自主的な判断による。
- 委) 副区長を女性限定にするのは難しいか。
- 市) 区ごとの判断になる。
- 委) 区の世帯数の平均はどの程度か。私の住む区では1,000世帯くらいになる。自治会長は区長で、その下に副会長2人、会計2人、監事2人、町内会長が6人という形で、組が11ある。
- 委) 西大和田は560世帯で、副区長が複数いるようだ。
- 市) 大きいところは1,000世帯程度、小さいところでは10~20世帯のところも

- ある。これは、従前からの地縁でつながっているところで構成しているため、区の大きさにはばらつきがある。107の区に区長を設置した形となる。
- コ) 市は各区の世帯数を把握しているか。
- 市) 把握しており、青木が市内最大の区となる。
- 委) 区のやることについて、市からマニュアルのようなものがあるか区長に聞いたことがあり、年一回の全体区長会議で説明があるとのこと。
- 委) 竹岡では、地元で独自に文化祭をやるための組織が市全体とは別にある。
- コ) 区同士の連携はあるか。
- 委) 区の課題は次々上がるので、区同士の連絡体制は必要だ。
- 委) 区長はさまざまな行事に参加する必要もある。
- 委) 先ほどの竹岡の取り組みは、市の補助もなく、しかも区役員などでなく地域の有志で行っている。今年で43回目になる。
- コ) 今のような、地域で独自に取り組んでいる例はあるか。
- 委) 佐貫では、女性コーラスを月2回行っていて、イベントがあるとそこで歌っている。
- 委) 公民館・市民会館に各サークルはあるが、竹岡からは遠いので、そこに集まるのではなく、地域で独自に開催している。
- コ) こうした行政主導でない自主的な取り組み、先ほどの例以外では自主的な溝さらいなども他の自治体ではあまり見られない。これは、富津市の強みではないか。
- 委) 地元出身でなく、区に入っていないのでほとんどピンとこない。加入する区自体がわからない。会社の人から区長さんを紹介してくれるという話になったが、断ってしまった。
- 市) 地域が従前の慣行によって分かれていて、大堀の区割りは地図で把握している。
- コ) できる限り情報提供してあげるとよい。
- 委) 赤十字などの寄付を見ると、約3割の人は自治会に入っていないように思える。市から自治体に指導するべきでは。また、区長さんが慣行で参加している行事は見直すべきではないか。
- 委) 新しい人向けに時間を割くことができる仕組みを作っては。
- コ) 市が委託している業務の範囲と、活動実態が離れているように思う。また、最近では区長報酬をやめて区の交付金を増額する自治体も多く、区の交付金から区長の報酬を出している場合がある。
- 委) 私が属する地区では、高齢者を招いてお祝いしている。市から高齢者に対するお祝いなどはないのか。
- 市) 88歳到達者には、市長からの祝状を送っている。富津地区は区長を通じて、

大佐和地区及び天羽地区は民生委員を通じてお渡ししている。地域によっては、地区の敬老会に該当者を招いて、そこでお渡ししている。

こちらとしては、地区からの要請により、区長、民生委員に依頼するようになったと理解している。

委) 青木では自治会が主となって行事をしている。区としては 900 万円／年くらいの予算があるが、市の補助は 54 万円／年である。結局、区の負担が大きいのではないか。

コ) 転出入について説明すると、富津市では自然減が多く、2 年間で 1500 人～2000 人が転出入しており、この数字は私が関わっている自治体と比べると 1.3～1.5 倍大きく、人口流動率が高い。その中で、転出を抑えるには、転出者アンケートから読み取れることは、仕事の事情は難しいとしても、結婚や住宅の都合で転出する人を半減させるだけでも効果があると思う。

(休憩)

コ) この地域のつながりは、市の担当とも話したが、かなりのメリットだと思う。しかし、改善提案シートには「自治会に入る意味がわからない。」という意見もあるので、それに対する回答は必要だと思う。

委) 自治会が何をやっているかをわかっていないのではないか。「区の消防費を払わないと消防団が消火に来ない。」という噂話もあった。また、街灯の負担もあるなど、区に入った方がいいと思いました。

委) 広報紙は区長回覧でないのか。

市) 現在は回覧ではない。

委) 新聞折り込みで配布されている。

市) 希望者にポスティングも実施しているが、新規受け付けはしていない。また、市の出先機関と商業施設・コンビニで配布し、カバーしている。

委) なぜ、新聞折り込みに移行したのか。また、世帯数に対して何部発行しているか。

市) 17,800 部発行しており、常住世帯のほぼすべてをカバーしている。一方で、近隣三市は世帯数の 8 割程度の発行。

委) ポスティングの現状は。

市) 現在は、600 人弱に市の予算で配布している。郵送よりは安価。

委) 区長回覧で十分ではないか

市) 平成 11 年頃までやっていたと聞いている。新聞折り込みに移行したのは、区長の負担軽減と、回覧に時間を要するため、行き渡るところには掲載した行事などがすでに終わっている例もあったので、発行日である 1 日に届くように

した。

コ) 広報紙が自治会の回覧のみになっている自治体もあり、それを自治会に入るメリットとしている。ただし、この場合は、「全世帯に配ることを目的としない」という行政の判断になる。

委) ごみカレンダーの配布方法はもっと拡充してほしい。

市) 転入者に対してはその年度のカレンダーを渡しているが、それ以降は各区の回覧で配布している。

コ) 自治会に入るメリットをそういうところに求めてはどうか。

委) この議論に入ってから、自治会の存在意義がわかるようになった。市から市民に区の役割を説明してもらえればもっとありがたかったと思う。

ナ) 自治会や消防団に入ることにに対する負担増に嫌気をさすという話もあるがどうか。

委) 私は消防団で分団長もやっていたが、どうしても悪いイメージばかり噂になってしまう。先ほど別の委員から発言があった「区の消防費を払わないと消防団が消火に来ない。」ということはありませんが。良さを伝えていく必要があると思う。区長さんも同じような状態ではないか。ただ、住民が入れ替わっても区の仕組みに変化がないので、臨機応変の対応が難しくなっているのではないかと思う。また、行政も市ができること、市民や地域に任せることを振り分けていくべきであり、ボランティアも以前より人が集まりやすいと思う。

委) 地域に住んでいる以上は、自治会に入って活動するほうがいいと思う。地域に根ざした暮らしや活動が基本だと思う。

委) 他のメリットとして、地域の視野が広がると思う。長い付き合いになれば悩み事を聞いてくれるほどの関係になる。一線を越えれば一気に親しくなれると思う。

委) 正直、メリットを感じる場面があまりない。地域の人とのコミュニケーションは自分でできるし、むしろしなくてもいいという人もいるかもしれない。

委) お祭りも自治会にいたほうが参加しやすいのでは。

#### 【地域の防災について】

コ) 消防団と自主防災組織の違いの説明を担当から説明願う。

市) 消防団は火事や災害時の出動がメイン。対して自主防災組織には平時の啓蒙や準備に力を入れてほしい。

委) 市民向けアピールを考えると、個人的には総合防災訓練のような形も必要だと思う。市全体で実施するのも一つの手だと思う。

委) 避難場所が各地域で決まっているが、誰が決めたものなのか。竹岡小学校あたりは地盤がよくないと聞いている。

- 市) 避難場所の設定は市で実施した。ただし、最近で言うと、常総市の水害の例があるので、自主的な判断も必要だと思う。
- 委) 参考程度にという捉え方になるのか。
- コ) 参考程度にというのであれば、それを伝える必要が出てくる。この中で津波の時どこへ避難するか知っている人は(挙手多数)。
- 委) 常総市の場合は、堤防決壊に備えた訓練はしていなかったとのこと。私の区では避難訓練も行っている。ただ、行き先が遠すぎるなどの問題があった。
- 市) 全世帯の避難経路を担保できるものではなく、全避難所に配備するのは、駆けつけることができ職員の数を考えると現実的ではないため、それも検討しようとしている。
- 委) 竹岡では天羽の備蓄倉庫まで遠いので、何とかしてほしい。
- 市) 備蓄そのものは竹岡小学校にも配備している。
- コ) 地域防災計画の想定では、ライフラインが遮断され、一日目は自分で、二日目は各地区の備蓄で、三日目以降はライフラインなどの復旧を前提としている。想定外の事態の際に、自分たちで何ができるのか考える必要がある。区が確立されているため、あえて区単位で自主防災組織を立ち上げる必要があるのか。それぞれ区の中でやったらよいのでは。
- 市) 国からの指導の下、自主防災組織の立ち上げを呼びかけている。区とは別に組織しているところもある。
- コ) 地域防災の機能について知ること、普段、地域に関わっていない人が自治会に目を向ける動機になるのでは。
- 委) 防災行政無線が聞こえにくい場合はどうすればいいか。安全安心メールを受信できない世帯も多くいる。
- 委) 夜勤の人間にとっては逆に耳障りな場合もある。台風などではさらに聞こえにくい。
- 委) 私は岩手の久慈に住んでいて、大震災の前にこっちに来たが、町そのものが流されてしまった。あそこまでの事態を想定するのは難しい。
- 市) 地震などの場合は行政の手ではどうにもならない事態もあるので、事前に耐震化や家具固定などの準備をしてもらいたい。
- 委) 近くで火事があったとき、最初に来たのは消防団のOBだった。そのとき消火栓を使ったらホース穴だらけだったと聞いた。定期的に交換しないのか。
- 委) 消防団で定期的に点検をしており、そんなに穴があいているという印象はない。
- コ) 消防団の資機材については国の更新基準があるが、その基準通りに更新できる自治体がほぼないので、多くの自治体では引き伸ばしている。
- 委) 職場の都合上、すぐに駆けつけることできる人間には限りがある。操作もい

きなりは難しいと思う。

コ) 担当からすると、災害時にどうなるかを理解してもらい、それに応じた場所に避難をしてもらう、備蓄をしてもらう(3人/9人の委員中)を、皆さんに求めることになる。

市) 竹岡の防災訓練に同席したが、非常持出袋を持って避難した人は3,4割。実態として備蓄している人の割合はそのくらいだと思う。

市) 災害時は心身ともに疲労しているため、栄養面などを考慮して家庭備蓄を考えてほしい。

コ) 最近では、あえて賞味期限の短いものを備蓄し、賞味期限を迎える前に消費しローテーションする方法も取り入れられている。

委) 国の補助金をいい方向で活用できないか。

市) 自主防災組織の立ち上げ時に機材購入の補助が半額出る。

コ) 補助金が出ることを受けて実施するのと、元々実施していることに補助金を出すのは意味合いが異なると思う。

#### 【コーディネーターのまとめ】

人口が減少していく中で、人口の流動が激しい富津市では、若者や女性が転出しないような努力が必要である。それが結果的に人口増加の要因になるのではないか。

地域活動では、区によって1,000世帯あるところもあれば、20世帯のところもあり、同じ区でも大きな違いがある。青木では、町内会がありその中に組が組織されている。

区費の徴収率から考えると、約3割の世帯が区に属していないと考えられるとの意見があった。自治会に入会するメリットが伝わっていないことが考えられることから、転入時に行政・区などから何らかの説明があるよいのでは。

また、地域活動の良さを伝える必要もある。人口の少ない地域でも独自の取り組みをしているところもある(志駒のもみじロード)。転入者への情報提供については、行政の責務であると考えられる。

防災については、被災直後に行政は何もできない。個人や地域で何ができるのか考える必要がある。情報提供については、防災行政無線、携帯メールであるが、市民全員に情報が届くよう努力が必要である。

#### 【ナビゲーターのまとめ】

若者への選挙アプローチの例→具体的な選挙のアピールと普段のアピールの違い、自治会も平時(お祭りなど)と緊急時(災害など)で役割がそれぞれある。

コミュニティの強さは富津市の強みであり、人口が減ったとしても満足度は継続できるのでは。

**【座長代理 亀田委員まとめ】**

富津市内のコミュニティの強さを実感した。大変な面もあると思うが、転入者として簡単などころで関わることができればと思う。自治会への入会については、一人暮らしではハードルが高い面もありそうだが、考えてみたいと思う。

**【次回市民委員会に向けて】**

コ) 介護について、地域包括を含めた討議に入りたいと思う。

**【次回市民委員会】**

・10月16日(金) 18:30から同会場にて



#### 第4回市民委員会 第2分科会 討議概要

平成27年9月23日 午後2時50分～5時30分 場所：502会議室

出席委員：9人/18人

コーディネーター：石井 聡 ナビゲーター：永久 寿夫

都市政策課（中山課長補佐、三ツ俣副主幹）

建設課（刈込課長）

事務局：企画課（中山、藤平、荒木）

#### 【テーマ】住環境 ～くらしやすく、移住しやすい環境づくり～

今日の議題：①人口ビジョン（中学校区別）について

②「改善提案シート」（資料4）をたたき台にして

③新しく思いついたこと、考えたこと

コ) 人口ビジョンについて、広域の富津市で3万5千という漠然とした数字の提示があったが、これを中学校区別でみると、一様に減少していくわけではないということで、イメージを掴む資料を提供してもらった。先の全体会でも説明があったが、これについて委員の皆さんの意見として何かあるか。

ナ) 確認だが、この人口推計の前提条件はどうなっているか。

市) 各学校区別の各年齢階層の増減率を用い計算をして、人口ビジョンで示した合計特殊出生率の希望が叶ったときと、ファミリー層の転入による増及び若年層の転出抑制の効果を上げたときの条件を踏まえたものである。

ナ) 増減の推計は現状の区域別に出して、増やす分に関しては全体の数字をそのまま各地域に当てはめたということでもいいのか。また、その地域の特性が必ずしもきちり表れているわけではないということか。

市) その通り。ただし、減少率のところでははっきり表れていると感じている。

ナ) 現実的にはもっと減るということも考えられるという解釈でよいのか。

市) 社人研推計とは違い、富津市独自の人口ビジョンの前提条件に当てはめているので、そういうことも考えられる。

コ) 皆さんの地域での実感等は何かあるか。資料1を見た感想でも構わない。

委) 大貫駅近くでさえ、高齢者の死亡等により空き家となり取り壊されず廃墟となっているところがある。交通の利便性が比較的良いと思われているところでも、そのような現象が進行しつつあることを認識しなければならないと感じている。さらに、市内でありながら、周辺地域（天羽地区）から都市化が進んでいる地域（富津中学校区）へ人口移動することが見受けられる。

コ) 市内での移動について、理由はあるのか。

委) 学校、高校以上に通うことの困難さ。駅の近くで利便性の高い、あるいは実家からあまり離れていないところを選択しているのではないかと、そういう事例がある。

コ) 同じような事例、または違うご意見はあるか。

委) 友人の息子が家を購入。元々は岩瀬に居住していたが、青堀駅周辺に家を建てた。理由を尋ねると、「田舎だから…少しでも買い物が楽なところに」との返答だった。

市) 意見にあるように中学校区別で見ると富津中学校区だけ増減率が他の区域と違い、減少幅が緩やかである。このことから、富津中学校区へ引っ越される方が多いのではないかと考える。

ナ) 天羽東中学校区では、人口も少なく、増減幅も小さいように思われるが、これはどういうことか。

市) 既に人口減が止まったのではないかと推測される。

委) 佐貫中学校区がこんなに少ないと驚いている。

コ) 佐貫という地域はどういうところなのか。

市) 市の中腹に位置する地域であり、天羽東中学校区とは減少する理由が違うのではないかと。地区としては国道沿いで君津に近い位置関係にあり、君津に行くのには便が良いところではある。

コ) 減り方の理由について、何か考えられるか。

委) ・若年層の家がない（子供がいない）。

- ・結婚を機に家を離れると、その後、親との同居というのはさまざま理由で困難な場合があるのではないかと。
- ・都会に出ると交通の便が良いため車の免許が要らない。一方で、田舎では生活ができないため免許がないと不便。結果的に住めない。
- ・佐貫にはスーパーがない。買い物には車が必須。住みづらい。
- ・コンビニで簡単な用を足すようになってきている。
- ・買い物するうえで多品種の中から選びたい。生活の多様化が考えられる。
- ・企業側の立場で考えれば、集客力のあるところに出店するのは当たり前。

ナ) 考え方（方向性）をどうするか。

増えている区域をさらに増加させていくのか。はたまた、減少区域は今後減っていくのだからどうしようもないと考えるのか。減ったところで取り戻すのか。だったら、一層のこと富津中学校区の方に人口を集約するような方向に進めていったらよいのか。いずれにせよ、大きな方向性を考えなければならないと思う。今までの発想だと、減少するからそれに歯止めをかけるべ

く立派な道路を整備するとか行きがちだが、それはコストがかかることだと認識しながら考えていかなければならない。

- 委) 先祖など、自分の立ち位置を考えるべき。子供に言い聞かせる事が重要。
- ・大げさかもしれないが、富津にはお前の力が必要なんだ！というようなことを継承していかなければ、なかなか人口増にはつながってこないのでは。
  - ・人口を増やすことを考えることは簡単かもしれないが、ベースを失ってしまったら何をしても成果が出ないと考える。
  - ・継承していくという話を受け、お祭り行事を通じて新しい発見等見出せるのではないか。
- ナ) 文化・伝統を大事にしていくということは地域色を残していくとともに、出た人を引きつけるような確率を高める。
- 市) お祭りがあることで地域の人を引き留めているように感じている。ただ、消防団活動において新入団を探そうとしたときに、断られるケースが多々ある。昔と同じようにやっていることでも、大事なものを受け継いで形を変えながら続けていくということが大事になってくると思う。

コ) ～ここまでの振り返り～

- ・地域差はどうしてもある。
- ・人口増を狙うにしても地域ごとの戦略が違うのではないかという話が、第2回するときにもあったと思われる。
- ・人口の移動する理由として、核家族化だったり、車のライフスタイル、生活・消費動向の多様化が挙げられたところである。
- ・キーワードとして、お祭りやコミュニティー、縛りがどうこうという話もあったが、お墓参りだとか先祖のことを大事にするということも取り上げられた。

このような面を踏まえながら、人口から一步進んで資料を見ながら限定しないで思いつくままに進めていこうかと思う。

住環境のうち、買い物、賑わい、便利さで市内がどうなっているのかがテーマとして必要ではないかと思うが、皆さんはいかがか。

委) 富津地区は他区域と比べスーパーなどの買い物する場所が多いので、人口があまり減少しないという要素があると思うが、大貫以南は極端に利便性の点では富津中学校区よりは劣っている。しかし、車が乗れない人は地元で用が足さざるを得ないために、最近ではコンビニで済ます高齢者がいる。

- ・若者を富津に呼び込む方策を考えていかなければならないと考える。

委) 同じ富津の中でも富津中学校区に集約しても市全体では増えない。羽鳥野や郡に若い人が移り住むのを富津へ呼び込む。君津・木更津より地価が安いことを売りにして呼び込む。

委) 近隣市と比較しても、若者が好む住環境の整備がなされていない。

ナ) 地価の安さが魅力。

発想の転換をすれば色々と克服できることはあるのではないかと考える。

委) ライフスタイルの提案を市がしてみたらどうか。

それで賛同する若者がいれば人口増につながるのではないかと考える。

・SEOの活用(例:移住、自然が多いで検索)…富津市HPとリンク

市) 市のHPに情報は載せているが使いにくいか。

ナ) どこに何があるかが分かり難く、使いづらい。必要な情報が少ない。

根本的に発想が違う。官公庁の使い勝手の良いものとなっている。

コ) 行政はこのようなライフスタイル提案は苦手である。

ここに来たらズバリこれです!というような提案方法をとっている自治体は少ない。提案するならこうゆうもので、ヒットするにはこれ!ということを考えないとダメ。まずは売り方を考える必要がある。

湘南スタイル、筑波スタイル等、ライフスタイルの提案。

委) 対岸と比べ、土地の安さはアピールしやすいと思う。

委) これから家を建てる若い人たちはインターネットを駆使して調べる。それを使ってPRすればよい。

== (休憩) ==

コ) 前半を振り返ると、富津を衣食住で考えた場合…

「住」…東京から考えると土地が安い。

「食」…多少問題あり。ライフスタイルによっては克服可能だが、地域によってはスーパーが無い等の問題がある。

「衣」…イオン富津の品揃えが悪くなったという意見あり。

その他、通院の問題、子供の学校のために比較的利便性のよいところに出て来る、あるいは通勤で市内から転出される人が多い。

ただ、働き方の変化により通勤も変わってきており、平日勤務や定時勤務の方々ばかりでないことも挙げられていた。

これを踏まえつつ、人口問題を考えながら討議を進めていきたい。また、前回の話で、そもそも人を増やさなければならないのかという意見もあった。

コ) 住環境というテーマでこれが不足しているなどの意見はないか。

委) 市外居住者アンケート(資料2)の中で、富津岬が認知度で上位にあるが、その敷地内にジャンボプールがある。施設の老朽化もあり、来場者が少なくなつたと感じている。改修したらもっとお客が来るのではないかと思う。

ナ) どこの所有なのか。

- 市) 県が所有、管理。施設については順次建て替え等を行なっていると聞いている。
- ナ) 来訪した際にプール駐車場はガラガラ、それに反し、富津岬展望台付近は、路肩に車が停車するほどいっぱいだった。一体的な整備をしたらもっと効率的になるのにと感じた。観光資源がたくさんある中で、はっきり言って売り方が下手だなという印象を受けた。
- 委) ふれあい公園の稼働率はどのくらいか。
- 市) 体育施設については、休日の利用があるが、平日昼間はあまり利用がない。
- コ) 公園があることで市外からどのくらいの人が利用しているかといったような統計は市でとっていないのか。
- 市) 把握はしている。
- コ) 例えばテニスで、学生の合宿需要みたいなものを軽井沢でなく富津で安く比較的都心から近い場所でできるといったようなニーズとかはないのか。東京からの近さを生かすなら、今これだけの人が来て、この季節にはこういった使い方の可能性もあるというのを提案してみたらどうかと思う。
- 市) 駅伝やマラソン等は大学や企業が利用しており、かなり定着化してきていると感じている。
- 委) 子供を誘致すれば付随して大人が来るので、よりお金を落としていってもらえるのでは。県民マラソンでも3~4千人という人が訪れているので、スポーツイベントを通じて人を呼び込むということも一つの手だと思われる。
- ナ) 目的はどこにあるのか。人口ビジョンを見たときに増やしたいという意味はわかるが、今住んでいる住民が住みやすい地域にしていくというのが一番ではないか。ここで整理していかないとまとまらないのではないかと思う。
- 委) 富津市に住んでいて誇りを持てるもの、自然環境など自慢できることを、より伝わりやすいキャッチフレーズで、堂々と富津市に住んでいることをいえるようになるとうい。
- 委) 転出者のアンケートにおいて、理由を逆にとれば解決策があるのではないかと考える。都会にはない地域の関わりが富津のいいところ。マイナス面もあるが。転入者の受け入れ体制、行政が転入時に地域を紹介、お住まいの地域はここに位置し、区長は誰だと伝える等の充実が必要。
- ナ) 富津はまだまだ外向けのPRが不足している。自然はどこにもあるので強調できない。これが富津として自慢できるもの！というようなものを集約させていかないと同じようなキャッチコピーになってしまう。
- コ) これまで自然という話はたくさん出てきているが、どのような自然ということはあまり協議されていないかと思われるので、どのような自然にどう喜びを感じるのかを出してもらいたい。
- 例として、外からの来訪者がどの自然に魅力を感じて来ているのか？そうい

う意見を聞くのもいいかと思う。

委)・君津市在住の方が早朝に富津で釣りをしてから仕事に来る人がいる

・サーフィンをしている人もいる

・ナビゲーターからも話があったように方向を絞るという面で、行政としても個人としてもそうだが、人口を増やすことを第一目的とするのか、財政面を保つことを目標とするのか、人口増＝税収増とはならないような話が出ていて、仮に人口減少しても税収が安定し運営ができていれば困ることはないと思う。後者のほうが現実的であり、住んでいる人も満足感を得られるので良いのではないか。また、企業誘致等で税収が増える仕組みを作れば、必ずしも人口が増加しなくても市の財政は安定するのではないかと考える。

ナ) その通りで、経営で考えたときにコストの見直しが重要。まずは事業の見直し、次にどのように稼ぐか。そして、商品開発という面で考えたときに観光云々という話が出てくる。生活を守るための税収が確保できるという仕組みをつくるということが重要である。

市) 前提の確認として、人口が増加することが一番望ましいのだが、このまま何もしないと社人研推計(3万)となってしまうのを、少しでも減少に歯止めをかけたいという思いでいる。資料1の人口ピラミッドにもあるように、年少人口が極端に減少してしまうため、少しでもいろんな策を打って今と同じぐらいに留めようということで議論をいただいている。

ナ) それは何のためにという議論がしっかりされていないから困る。なんのために3万5千を維持しなければならないのか。3万だったら何が問題なのか。前者とどう違うのか。どこからその数字がきたのか。その議論をきっちり説明してもらっていない。なんで、減少人口をとどめなければならないのかという議論がない。数字が先にあってどうして3万5千なのか。だったら3万5千を目指そうと合意があればそこを目指す。だけど、3万5千の合理的な説明が何もない。

市) 地域の活性化をしていくために、少しでも年少人口のボリュームを守っていくため。

ナ) 少ない町でも繁栄しているところはいくつもある。

市) 年少人口で上の世代を支える…そのため何をすればよいか、皆さんにご意見を頂戴している。

コ) 人口を支えるとはどういうことか。

委) 切羽詰まっているという具体的なことを例として挙げれば、問題の糸口が見えてくるのではないか。

ナ) 3万5千を維持するとこれだけのことが出来るとかという説明があれば目標に向けた議論ができる。個人的に増やすことには否定しないけれども…。

委) 具体的な理由を出してもらいたい。

予想される問題を市は具体的に出すべきではないか。

ナ) 人口で集約される話ではない。すべての解決が3万になるのを5千人増とすることだけではない。3万5千という、あたかも当然に設定された目標のように議論するというのはナンセンスである。

委) これまでの市の取り組みの失敗例を出すべき。過去の失敗例も考える余地があると考える。未来への危機感をみんなに訴えていけば、市民も自然と協力していくのではないかと…そういう緻密な行動が必要である。

市) 十分に周知できていないことは承知している。

ナ) 大変なのは承知だが、本気で富津市が取り組んでいるとは感じられない。3万5千にした合理性みたいなものをきっちり説明できないということであれば、それは本気でやっていないということ。それだったら、「結果的に3万5千になった」ということでもいいのではないかという話になる。

どのくらいの人口であれば生活を維持できるというシミュレーションはすべきである。

委) 市民委員会を何のために立ち上げたか。広報で周知はしていると思うが、明確に市民に知ってもらう必要がある。

また、バスストップ計画等、議会で決定していることをはたしてここで議論して元に戻せるのかということが一番に聞きたかった。覆せないのに議論するのは言い訳を作るための口実なのではないか。そこはナンセンスだと思う。

市) 総合戦略として市が5年間で重点的に取り組んでいくこと、やらなければいけないことへのご意見をお聞きしている。

コ) 11月8日に行政としての指針が示される。今日と次回(10月)の議論を踏まえて、2040年(人口3万5千人)という方向性、少なくとも今後5年間の方向性を考えていくというものになる。ただし、現状では皆さんに共有できるものができていないというところなので、その辺を市は示してほしい。

委) 東京湾口道路や第三空港について、市HPでも10年ぐらい凍結された状態の政策であり、また、多額の負担を強いられるようなスローガンを掲げ続けているという点も、財政面等に対し、富津市は本気で真剣に考えているのかと不信感をもっている。スローガンはなんでもいいわけではないわけで、もっと現実を見たものにしてほしいというのが市民の考え。

また、先程から議論されているように、ただ議論したというだけの痕跡を残すために私たちが呼ばれているというふうにも勘ぐりたくなる。

ナ) ここで議論した意見を反映させるということだが、その基準はなにか。

決定のプロセスはどんなものなのか。基準とプロセスを示してほしい。

市) 基本目標の達成が大事であり、直接的にも、組み合わせることでも影響が与えられるものについてと考えている。

ナ) 統計学的シミュレーションなのか、やり易いものからやるのか。

効果とやり易さの両方を兼ね合わせたものが一番いいと思うが。

・効果はどのようにシミュレーションするのか。

市) 総合戦略の5年間でやれるところから、と考えている。

重要業績評価指標を設定して、どれだけ効果が上がるだろうという把握をする。

ナ) 我々が議論した内容を反映する際に、一つひとつ効果測定するのか。

市) 現段階では基準は決まっていない。年次で進捗状況を公表する予定。

委) 明日の議会において報告するとの話があったが、どのように報告するのか。

市) 市民委員会での議論は終結していないため、最終的な報告を得た後に公表をする。明日は、今日示した資料と人口ビジョン素案について報告の予定。

委) 結論的にどこまで反映されるのかを示してほしい。どこまで反映できるのかを市民に約束してもらわないと、ただ単にやったにすぎなくなってしまう。

コ) 議事録から行政の方向性に合うものだけをピックアップして、意見を聞きましたでは駄目だということ。また、10個の案があるとして、役所に都合のいい3個をとってやるのか、効果が高くすぐやれそうなものを順番に並べて上位のものを取り上げるのか、なんでそれをやったのかというものを年度内に説明できるか?ということナビゲーターが申し上げているので、次回、基準とプロセスの説明を市にお願いしたい。

また、委員の皆さんには、「富津市を豊かに維持していくためには人口をどう考えるか」を次回の検討テーマにしたいので、考えてきてほしい。

市) 次回は10月16日午後6時30分から 開催通知を差し上げる。

(終了)

#### 【市民委員の宿題】

・「富津市を豊かに維持していくためには人口をどう考えるか」を考えてくる。

#### 【市に説明を求められた事項】

- ・なんのために3万5千人を維持しなければならないのか。
- ・3万5千人を維持するとどれだけのことが出来るか。何ができないのか。
- ・ここで議論した意見を総合戦略に反映させるということだが、基準とプロセスを示してほしい。



#### 第4回市民委員会 第3分科会 討議概要

平成27年9月23日 午後2時45分～午後5時 場所：503会議室

出席委員 7人(18人中)

コーディネーター 露木 幹也

ナビゲーター 福嶋 浩彦

事務局：企画課 赤井、飯田

子育て支援課 小野田

健康づくり課 赤井

学校教育課 今井

【テーマ】子ども・子育て～子どもの笑顔があふれるまちへ～

市) 担当の判断で議事概要のうち、市の職員の発言の一部を削除したことについてお詫びする。また、委員に送付した議事概要と本日配布した議事概要の誤字の修正箇所は、網掛けしてある部分である。

ナ) 市の職員間での議論で「市役所の中で、自分の頭で考えて判断していくということがないのではないか」という発言があり、別の職員が「そんなことはない。自分でちゃんと考えている。」と発言している。そのやりとりを受けて、私が6ページ中段の発言をしている。しかし、職員間の発言が全部削除されている。どういう意図かはわからないが、「市に都合の悪い発言は削除したのではないか」と思われても仕方ない議事録の作り方である。こういうことはお互いの信頼関係を壊すので、2度と無いようにしていただきたい。

削除した内容を復活させた議事概要を全員に配布してもらいたい。

市) 以後気を付ける。また、議事概要を修正し配布する。

ナ) もう一度確認するが、市の職員は「市の公式見解しか分科会では述べない」という話では、議論の面白さが無い。いろいろと生産的なものが産まれてこないと思う。

前回、個人的発言と市の正式な発言を区別するとの話があった。区別するのは良いが、むしろどんどん「個人としてはこう思う」という発言を分科会ではしたほうが、ずっと生産的な議論になると思う。立場を気にして発言しては良い議論にならない。

公式見解だけの発言であれば、計画書を見れば済む話であるため、重ねて希望する。

コ) 前回の、人口推計の話があったが、このことについて、議論をしたいと思う。

ナ) その前に、先の全体会で、「子ども子育てのための市民の会議」が別にあって、去年から議論をしてきているという話があったが、委員の皆さんはご存知か。

委) 今日分科会のため、何か発言している市議会議員がいるかと思いブログを読んでいたら、市議会の子ども子育て会議があつて。

ナ) 市議会の会議か。

委) 市議会議員の分科会があつて、そこに子ども子育ての会議があるそうだ。そういったものがあるなら、この分科会での議論はどうなるのかと思った。

コ) この点について、確認したい。

幼稚園関係者・保育関係者等が集まった子ども子育て推進会議というものが、他の自治体にもある。そういうものではなく、議会の中にあるということか。

市) 委員の言っている市会議員のブログは、教育福祉常任委員会の委員長である議員のことであると思うが、その議員が「子ども子育て会議」で、現在委員長という立場で会議を行っている関係で、ブログ等に出していることと思うが、「子ども子育て会議」は、平成27年4月から全国的に、子ども子育て新制度ということで、いろんな支援策、主としては待機児童対策等があるが、このための計画を作るために会議、組織を作ることがあり、平成25年に市民公募と、保護者の代表、保育や子育て支援事業に携わっている人、大学の先生など15名で組織しているものである。

そこで、当初の目的の計画ができたので、これからは計画の進捗状況の検証や現在の子ども子育て会議の委員は、富津市の子ども子育て支援の施策のどういうものが、必要なかという所を、独自に検討し始めているところである。

このため、市民委員会の第3分科会でも子ども子育てに関する意見が出るということで、その点だけを見れば重複することもあるかと思うが、お互いの意見から、より良いものができて行けばと担当課では考える。

会議については、条例で設置した会議で報酬も出ており、委員は非常勤特別職の公務員であり、子ども子育てに関する検討をしている。そういう組織がある。

ナ) 整理すると、今日の全体会での説明で市民委員の皆さんは、議会の中の一つの委員会・会議だと思われた方が多いと思うが、今の説明では、そうではない。議会の会議ではないということか。

市) 議会の会議ではない。

ナ) 民間の人たちが委員になっている会議で、委員長が市議会議員というだけであって、議会の中の会議ではなく、行政の会議。自治法上の附属機関であり、市民が委員になっている。

市民の委員の議論が、現実に平行して行われている。それが悪いとは言わないが、互いにどんな議論がされているか情報交換をしないと、変なことになる。

委) 子ども子育て会議の委員は報酬が出ている。市民委員会の委員は休みの日に無報酬で出ている。何それ。初めて聞いたから。

子ども子育て会議もあるけれど、一般の声を聞きたいから、市民委員会をやる、というならわかるが。今朝初めて知った。同じ様な諮問機関じゃないか。

ナ) 子ども子育て会議は、条例で設置された正式な機関。そちらから見れば、「正式な機関があるのに、任意の機関は何をやっているんだ。」と思いかねない。

市民委員会の議論は子ども子育て会議に伝わっているのかも大事であるし、また、子ども子育て会議では、どのような議論がされているのか、私は外から来ているから、初耳でもいいかもしれないが、委員の皆さんが初耳であるというのは、それはないだろう。

委) 経営改革会議で「派手に外部委託して、諮問機関を作るのが経営改革ではないのでは。

その中身が大切なのでは。」と言われたら、何をしに私たち委員は来ているのか。

ナ) 合同会議を開くのが、一番有益だと思う。

市) 確かに、子ども子育て会議の委員から、市民委員会の分科会で子ども子育てについて検討するという話を聞いたら「自分たちの立場はどうなんだ。」という意見があった。

市内部で横の連携ができていなかった。足りなかった。子ども子育て担当課も市民委員会で、子ども子育てを議論する分科会ができることを後で知った。

やはり、子ども子育て会議と市民委員会の位置づけをどうするのかということも、担当も感じている。

この分科会では、市民の意見が出るということで、尊重すべきであるし、子ども子育て会議で出る意見も同様に尊重すべきであるが、そこをいろんな施策が、噛み合うこともあると思うし、全く違うこともあるかもしれないが、その意見をこれから精査して、実現できるものは実現して行くと考えざるを得ない。

ナ) 私はそれが一番駄目だと考えている。今の姿勢こそ駄目である。

「市民の意見をいろいろ聞きます。いろんな場でそれぞれ議論してください。」、それを「市が良く考えて実現する。」「市の職員が、一番いいものを決めてあげます。」という姿勢だ。市民はそれぞれの場で、他の状況は知らずに自分たちの意見を言うだけ。そういうことをやめましょうというのが、この会議だと私は思っている。市民同士でちゃんと議論しようよ、ということではないのか。

市) 市民委員会については、子育て担当職員からあまり言える立場にないので・・・

委) 経営改革会議の委員も一人辞めた。自己都合とはなっているが。

市) そのように聞いている。

委) その人にも聞いたが、知らなかったと言っていた。経営改革会議の委員たちにも聞いたが、市民委員会を知らなかった。私たちが一生懸命、富津市の経営改革やっているのに、また、市民でやっているのは不愉快だと言っている委員がいた。

ナ) 始まる前に言ったが、子ども子育て会議の資料はないのか。去年1年間、会議したのだから、その資料を見せてもらいたい。せめて今日は、それを見ながら議論しよう。

委) どう改革したのとか。

市) 現段階では、改革といったところまでではない。

ナ) 決めてしまってからでは、お互い決まったことだからと、違うことを決めてもしょうがない。決める前だからこそ、今までの資料を見せてもらいたいと言っている。

市) 今年度は、会議が8月23日頃に開催し、意見が出てきたが、まだ固まっていない。

ナ) だから、出てきた意見、資料を見せてもらいたい。会議の資料、議事録はあるのだろう。

市) 議事録は、まだ公開していない。

ナ) 公開してなくてもここに出せるのではないか。

委) たたき台とか。

市) たたき台がまだ無い。

ナ) 去年のものはあるのでは。

市) 過去のものはある。

ナ) それを出してもらいたい。今からコピーしに行って出せばいい。

市) かなりの量になる。

委) 去年どういう意見が出て、どこを改革したのか、出来なかったのか。それでいいですよね。

コ) 現実にある程度決定して、動き出しているものがあるのか。

市) 去年までの会議では、計画を策定するためのもので、これをやるといった具体性のあるものではない。ある程度決まった項目があって、富津市では、どうして行こうか。というところが主たるものである。計画書は出来ているので、その計画書が今すぐ配布できる部数があるか、直接の担当者ではないので、数が用意できるか分からない。議事録は今から印刷するので、今から用意する。

コ) その計画書とは、子ども子育て支援事業計画か。

市) その計画である。

委) 別に会議があることが良くないと言っているのではなく、どうして別に会議があることをオープンに出来なかったのかということが言いたかった。

せっかく、先生(ナビゲーター)が来て一生懸命やって下さっているのに、そんなこと他でやってたのというのは、それはないでしょうと言っているのであって、富津市では他の会議でも、こういうことやっていると最初に説明すればそんなに不愉快ではないが。偶然ブログを見なければ最後まで知らないままだった。

コ) 今年3月に出来た、富津市子ども子育て支援事業計画第1期。これを策定するために去年議論していた。

市) はい。

コ) それを委員に用意してもらいたい。

市) 確認する。

ナ) 次回ナビゲーターは出席しない回であるが、今回は子ども子育て会議の委員に、全員というわけにはいかないだろうが、都合のつく人は是非来てもらって、意見交換をしてもらったほうがお互いにいいのではないか。

コ) 次回開催日は10月16日(金)であるが可能か。

市) 子ども子育て会議の委員に確認する。それでは、議事録と計画書を用意する。

<子育て支援課退席>

コ) では、用意まで時間が有るので、別の議論をする。人口推計については、先ほどの全体会で話があったように、前回4つの班全てで、そのありかたについて委員のご意見をいただいた。それに基づいて、富津市がどのようにそれを反映して行くのか、ということをもう一度見直す。ということで、11月の委員会までに、市内部で調整のうえ、全体会の中で、こういう形で考えていると、示されたものを再度委員に意見をいただき、最終的に人口をどう扱っていかうかを決めよう、ということになった。

その際、あらためて委員から意見をいただくことになるかと思うので、よろしく願いする。

ナ) 35,520人という目標は、まだまだこれから充分変わり得る、という見方をしてもらいたい。

コ) おそらく数字の中身が問題ということではないと思うが、どういうコンセプトで市が、

計画を立てて行くのか。その中でどういう数字になるのか。というふうに個人的には思う。

皆さんも数字に捕らわれるのではなく、どういうふうに総合戦略を位置づけて行くのかということが大事なポイントだと思うので、またご意見を次回もいただきたい。

ナ) 人口ビジョンの関係で紹介だけしておく、普段は県のマネなんかすることないと徹底して言っているが、この場合はむしろ千葉県のほうが的確な捕らえ方をしていると思っている。

千葉県の人口ビジョンは、いろんな推計を示している。一回県外に出ていた若い世代の女性が戻ってくるとか、出生率が上がるとか、そういうことが全部実現し、それが全部効果を挙げたら、人口は減るが、五百何十万になる。単なる推計で今までどおり減ると四百何十万かになる。いろんな政策が全部上手く行ったら、人口の上限として、五百何十万人になる。上手く行かなければ四百何十万ぐらいの人口になる、というように示している。

常識的に考えて推計というのはそういうものだ。県は「全部上手くいった場合の五百何十万人というのは、決して目標ではありません。」「いろんな政策を実現して効果があった場合の上限の人口です。」という説明をしている。富津市でも3万5千人が目標になってしまうと、3万5千人を達成するために何をやるか、出生率を上げるためにこれをやろうとか、これぐらい人口が戻るようにするためにこれをやろうとか、そういう話になってきて、女性は産めという話になってくる。そうではなくて、やるのが上手く行ったらこういう推計、駄目ならこういう推計。私はそっちのほうが明らかに優れていると思うのだが、千葉県のやり方を紹介しておく。

委) シルバーウィークに富津市で、市外県外とか子どもたちを呼ぶようなイベントとか、そういうことを何かやったか。木更津市は毎日やっていた。せっかくの大型連休に何か企画していたか。富津市に泊まるためとか来てもらうためとか。

市) 市が主催しているものではないが、広報・PRを行っているものとして吾妻神社の馬だし祭りがある。

委) 地元の一部の人たちだけだった。テレビで放送されたからといって県外から来た人とかいうことやりましょうというのもない。来たのは、寄附を3千円ずつください、と来ただけ。そこで、例えば何かやって、子どもたちと馬追いを見せる席を作るとか、そこで何かイベントするとか一切なかった。

市) それは、地域でできることにあたると思うが。

委) それ以外には、何か実施していないか。人口増やすとか、移住してもらおうとか言うのであれば、市から声かけして、皆にこういうことやりたいからやりましょうとか、あるいは何かあったら言ってくださいとか。そういったことがありましたか、ということ質問している。皆通り過ぎてしまい、南房総や館山に行ってしまった。

ナ) マザー牧場のテレビ放送で、羊の群れがわあっと来る様子などは楽しそうに見えた。

委) 馬だし祭りが、千葉テレビで放送されたからといって、馬が走ってそれで終わり。お祭り見に来るたびに子どもが参加できるイベントをやるとかまったくなかった。

ナ) マザー牧場の放送を見ていて残念に思ったのが、富津にあるというところがどこにも出ていないこと。何かそのあたり仕掛けをしておく必要があるのではないかな。

委) 根本的に、市は考えているかを感じた。いくらこういった会議をしても、何とかしようという気がなければ意味がないのではないかな。ブログの記事にもあったが、このような委員会を立ち上げてもしようがないというのは、あたってはいるのではないかな。

コ) ただ、それを行政のせいだけにして済む。という話ではなくてそれに対して、これから行政、市民、いろいろな団体、企業、先ほど話に出たマザー牧場も企業だと思いが、そういった人たちとどう連携していくかを模索していくということがこの会議の中でしていく必要があると思う。

そういった中で、ここをこうしたらよいというものを挙げていただくことがよいと思う。

委) ひとつお願いしたいことがある。学校給食について、事業仕分けでも話がでたが、自校式から共同調理場方式に変わるということに伴って、手作りから手作り感のある加工品が増えるという話があったが、それに対して子どもたちが摂取する食品添加物が増えることが心配である。という話を仕分けの際に発言したが、それについては、栄養士がきちんと調べて内容をしっかり検討しているので心配ないという趣旨の回答をすぐにもらった。

そういうことをしっかりやっているのであれば、そういうことを気にしている親はとて多いと思う。出される給食にまかせっきりの親もいるとは思いますが、子どもたちが学校でどんなものを食べさせられているのかを心配している親もいると思うので、その内容を是非全部の親が自由に見られるようにインターネットでも、プリントでも、何かそういうことをしてもらえるといいと思う。

私の子どもは成人してしまっただが、仮に私の子どもが給食を食べるとしたら昔に比べると今の給食の方がより心配である。例えばお肉の生産地であるとか、加工品であればどんな添加物が入っているか。私たちの年代であれば先も短いので、そんなに気にするものではないが、子どもたちはこれからどんどん取り入れて行くので、そこをとて気にして、自宅では、きちんと食材を選んでいる家庭は、少なくないと思う。

親が見ることができれば子どもと話をしながら、今日はこの給食だから、言葉は悪いが、無理に食べなくてもいいよとか、今日は安心だからしっかり食べてらっしゃいとか。そういうように選べると思う。昔のように「残しちゃいけない。」ということではないと思う。

そういう情報を公開していけば、「富津市はしっかりしているな」と思ってもらえる親もいると思うので、是非お願いしたいと思う。

コ) 保護者に対しては学校給食についての情報は、どの自治体も出していると思うが、保護者以外には情報が流れてこない。そういう安心感を保護者だけでなく市民全体にPRした方がいいのではないかなという意見。

市) 今の意見についてですが、献立表という形で、どういうメニューが出るかとそこに入っている食品について、保護者には提示している。カロリーについては、全保護者に・・・

委) 調味料は。

市) 調味料とは、たとえば塩分がどれくらいとか。

委) そうではなく、質のことが気になっている。油にしても粗悪なものもあると思う。どの程度のものを使っているというのは知りたいと思う。一概に良いものを使ってくださいとはいえないが、しかし、使っているものが分かれば親から子どもにも言える。

娘に孫が生まれたときを考えるとやはり気になる。

市) 食品添加物等については、アレルギーについて富津市の場合アレルギー対策の給食ができない状況なので、その部分についてアレルギーがある子どもについては、実際に卵、小麦が含まれているものについては、栄養士がマーカ―をして、こういうものがあるということを保護者にお知らせして、どうするか相談をする。

ナ) アレルギーと添加物は別の話。

コ) 通常、学校給食であれば、物資選定委員会のようなものがあって、業者から提案される物資について、成分や添加物などの内容を確認して、採用不採用を決めているのだと思うが、富津市はどうか。

市) ひとつひとつの食品についてということか。

コ) 物資選定委員会で食品についてやっていると思うが。

市) 学校の栄養士が、選定している。

委) その栄養士が知りえる内容を、公開してもらいたい。使っている材料も昔のようにジャガイモとかにんじんとかということだけでなく、加工品が増えれば食品添加物の量も増えると思う。その内容も記してもらいたい。

ナ) 例えば、ホームページとか。やれるか。

委) 全部の親が知りたいとは、思っていないだろうが、知りたい人が調べられる環境を作ってもらいたい。

委) 食生活改善推進員とはなんのためにあるのか。私は何年かやったが、まったく意味がないと思った。そのとき子どもたちに添加物についての説明や試食をやったが、出来上がったものはおいしくなかった。子どもは気を使って「おいしい」と言っていたが、実際は残していた。

と言うのも、栄養のためにと言って牛乳にヨーグルトを混ぜたものを出していた。カルシウムの量のために。

この前、食生活改善推進員の研修で見学に行かなければならないが、ハウス食品を知っているかと電話がかかってきた。理由を聞いたら、「行かなければならないから。」と返事があった。意味が無いなら行かなくていいのではと答えた。何のためにあるか分からない。

今の時代、健康に関することは、ホームページで調べたり、クックパッド皆さん分かると思うが。館山は、たしかやめたと思う。

コ) あまり細かい話ばかりでは仕方ないので・・・

ナ) ただ、本当にホームページに給食の食材料の食品添加物を公表したら、これは画期的である。若い世代で、そういうことに関心のある人たちの安心感は飛躍的に高まる。「だったら富津に行こう。」というように考える人もいるかもしれない。やれそうか。ここで最終回答するのは無理だと思うが。

市) 自分の担当している部署ではないため、具体的にできるかできないかは、答えられないが、例えば放射線の調査等もホームページでやっているのだから、添加物についても、どういうふうになれば可能か、また、どのような食品添加物があってどれくらい含まれているかというものを把握しながら・・・

委) 放射線のこともあるのであれば、ホームページの1ページだけで簡単に見れるようにしてほしい。

委) 今そういうソフトがあるから買ってやったらどうか。食品分析できるソフト

市) ホームページについては、給食に関するものであれば給食に関するページにてやって行きたい。

ナ) 放射性物質は測定しないと駄目だけど、加工品を使った場合、加工品には表示義務があるからやろうと思えばやれる。ただ、ものすごい量の添加物が出てくる。膨大な添加物が入っていることを公表することになる。ただ実際に子どもたちに食べさせている。真実を伝える勇気があるか、決断の問題であると思う。

委) 全く食品添加物が入っていない食品があるとは思っていない。

コ) 使われる加工品は、給食の中ではそんなに多くないと思うので、ある程度使うものをデータベース化しておけば、引いてくれば表示されるようにすれば、そんなに難しい内容ではない気がする。

委) 人によっては、この添加物が含まれているものは食べさせたくない。という人もいるかもしれない。種類がわかるだけでもありがたい。

ナ) 仕分けのときに、富津市は添加物の少ないものを選んでいっていると言っていたが、立場上、そう答えたのだと思うが、本当にそうか。みな厚生労働省が認めた添加物で、当然認められた量しか入れていない。だけどこれは危ないから止めておこうという判断を、栄養士が本当にやっているのか。それはかなり難しい判断だと思う。厚生労働省が良いと言っているものを、富津市が駄目と本当に判断しているのか。多分、難しいことだと思う。

それを、なるべく少なくしていこうと常に思うには、公表して膨大な添加物が入っていることが見える形にする。そうすると少しでも少なくしようという方向に行く可能性がある。とても大事なことなので、是非実現してもらったら、売りになると思う。

委) 人から頼まれたのだが、大佐和分院に夜間に救急を利用すると、5,000円取られる。若い母親が、確かに、結果緊急性の低いケースもあるかもしれないが、子どもが夜に熱をだしたら、自分では判断できない。とにかく病院に連れて行かなければと思ってしまう。お金をとられるのは仕方ないかもしれないが、よほどのことでなければ連れてくるなど言われている気がすると言っていた。そのあたり指導してもらえないか。

市) お金をとるという問題ではなく、医者が辞めてしまうという問題がある。よく「コンビニ受診」という言葉もあるが、たしかに、初めての子ども、また、一人しか子どもがいない家庭も多くあると思いますので、あせる気持ちは分かる。

以前、君津中央病院で泌尿器科の医師が、県下で一番忙しくて、辞めてしまい、また、その後も新しい先生が来なくなると聞いている。今回も、小児科が内科以上に忙しい状態なので、辞めて手を引きたいという話が出ていると聞いている。そのように医師会から話があり、お金の話ではなく医者がいなくなってしまう話の中で、そのあたりが難



しいのではないかと思う。

委) 相談する窓口はないか。例えば健康づくり課とか。

市) 電話相談については、君津中央病院にコンシェルジュのような人がいて、電話すると出てくれる。「どういう状態ですか」など聞いてくれるそうなので、相談窓口はある。

あと県でも、午後10時まで、小児救急電話相談をやっている。

委) 木更津は12時までやっていたと思う。

市) 本当は、まず相談に流れてくれれば良いのだが、やはり先生がたくさんいる病院での受診を希望する。そういう状態の中で、小児科は特に忙しいそうなので、君津中央病院さんは特に。富津市でも、小児科専門の医院は無い。

ただ、皆さんのご不満も、私たちが子どもがいるので、気持ちは分かる。

委) 不満ではなく子育てをしていて心配だと言っていた。

市) その心配も気持ちは分かるが、そういった事情もあって、お金の問題についても、県下でもやっている結構あると思うので、負担のことについて、なかなか難しいとは思いますが、お願いしたいと思う。

コ) 富津市の小児医療助成はどうなっているか。中学生まで対象とか。

市) 所得に応じ、自己負担200円又は無料。県の基準だと300円・・・

委) 夜中に、そんなにたくさん子どもが受診するということはないのではないか。

市) 日によって違いがある。また、夜勤であり次の日の朝まで残るが・・・

委) 私立の東病院などあるが、当番で相談・受診対応してもらうことはできないか。富津市からお願いするとか。

市) 小児科医がいないため、・・・

委) 小児科じゃなくていい。とりあえず診てもらえればいい。一度に何十人もということはないのではないか。そういうことを市から協力をお願いすることは出来ないか。

市) 最近の医者は、病院に住んでいない。富津市では特にそうである。そのような状況で当番制を実施すると、週1回当番が回ってきて、お願いすることはできるかもしれないが、実際には難しいと思う。

委) 医者じゃなくても看護婦でいいと思う。

座) 医療機関にいるので話をさせてもらうが、医者というのは「餅屋」であって、小児科医ではない人が、小児科の話を振られても答えられない。答えると責任をとらなくてはならない。責任をとりたくないから。餅屋の範囲外のことはやりたがらないので、まず無理だと思う。また看護師も、職場経験はあるが、答える権限を持っていないので、無理だと思う。

委) それでは無理だ。

ナ) 市から「コンビニ受診」という言葉が出たが、医療費助成はどう考えているのか。医療費助成こそコンビニ受診を生む元凶だと指摘されている。だったら、ばら撒くよりも使い方を考えて集中して、小児科の医師に特別に手当てを出すとか、小児科医師を確保するための投資をする方が、本当は、子どもの命や健康を守ることにつながるかもしれない。補助金出した方が人気は出るとは思うが・・・

委) 今までのままなら別に良いが、富津市を子育てしやすいまちにしたい、子育てに良い

まちだと、言っているから、さきほどのことや、病院のことも、「安心だ」、「貧乏な市が子どものことをこんなに考えているんだ」というきっかけになると思う。お金がないからとか、何かがないからできないとか、そういうことを言っていたら何もできない。

コ) 小児医療に対して、市民から不満とか要望などはあるか。

市) その辺りの話は、少しあったが、それ以外は、小児科の専門と言う看板を掲げているのは市内では、無いかと思う。現実には内科医の医師が対応しているのではないか。委員もご存知だとは思いますが、小児科医はなり手がいない。そういう話の中で、4市で経営している中央病院があって、富津市だけで対応するというのは難しい部分である。

委) 議員一人に700万の報酬を支払っている中で、一人減らせばいいのではないか。

コ) 小児救急・夜間についてはどういう対応をとっているのか。

市) 本当に緊急の場合は、3市は君津中央病院に行くことになる。夜間救急や一時については、当番医があるが、内科などが主であるので、そこに一度行くことになる。

コ) どこかで集中して受付しているのではなく、当番にしているということか。

市) 夜間は木更津市の施設にお願いしている。君津木更津医師会の地元当番の医師が順番で回している。

コ) それはどこかの施設に行つてということか。

市) 夜間救急の施設に行っている。

コ) 富津はどうか。

市) 富津には無く、4市でひとつの施設でやっている。医師の数自体も少ないので、そういう形の対応をしている。

ナ) 小児科の医院はないのか。

市) 小児科という看板を掲げているのは、市内には無いと思う。

委) 原田内科小児科医院がある。

市) 訂正する。その原田内科小児科医院のみとなる。

委) 小児科の医院でなくても、子どもを診てくれる。

市) 内科医が対応している。

コ) 最終的には、細かいところは戦略の施策がでてくると思うが、末端から話が出てくると、全体が浮かんでこないで、子育てに関して、小学校に入る前、学校教育前の子育てについて、富津市では市民の皆さんはどのようなふうを考えているのか。非常に手厚くされているのか、不満があるのか、そういう声が届くのか。

座) 「富津市だから」であるかは分からないが、ベビーカーを使っているときに、エレベーターとか、近づいていっているのに閉められたりとか、都会であれば10メートル前からでも、待っていてくれたりとか。そういう気遣いが違うと感じた。

ベビーカーを利用して、バリアフリーが充分でないと感じた。医療については、原田内科小児科医院や君津の森広病院に通っているので、あまり不便さは感じていない。

コ) 子育て支援課が現在、資料作成中なので、小児医療については後ほど議論することとする。

前回の話で、富津市をエリアを分けて考えるという意見がでたが、子ども子育てに関

して、そのエリアがそれぞれどういった機能を持っていけば良いのか。そういった視点での議論をしていただきたいと考える。

座) 今回のために周りでいろいろと意見を聞いてきた。前に話が出た2分化について、都市部は都市部、田舎は田舎ということだが、結婚して富津市から出てしまった人たちの「なぜ、富津市から出てしまったのか」という理由のひとつに、「ご近所づきあいたくない」というものがあった。私の周りにも、その理由で出てしまった知人がいる。隣に住むおじいさん・おばあさんが、どこどこさん家の誰々さんが、いついつ、何々していた。というように監視されているのが嫌だと。昔の近所付き合いでは当たり前なのかも知れないが、そういうことが嫌で、プライバシーを守りたいということで、「都会のように隣に誰が住んでいるかも分からないような所に住みたい。」と行って出てしまった。

それはそれで良いと思う。だから、今で言う青木地区とか新興住宅地域にそういった人たちが住むことに適していると思う。市外でなくともそういったところに住んでもらう。

また、先日テレビでやっていたことを人伝で聞いたものだが、船橋市の20代の女性が、秋田に旅行に行って、秋田で古民家を改修して格安の宿にしている地区があって、格安のため、食事は自炊となっている場所。そこを訪れたときに、宿の近所の住民から、「これ食べなさい」といろいろな食べ物をもらっていた。その女性は、「こんなに良い人がいるなら、ここに住みたい。船橋では隣に誰がいるかわからないけど、田舎はなんでこんなにあったかい所なんだろう」と思ったそうだ。富津市でもそれはできると思う。

田舎では、横のつながりを保つ、または育てていけば、その良さがまた、出ると思う。それを知らない人たちがそういうものに触れると地域も活性化すると思うし、これからの高齢化社会で、独居老人も増えると思うが、若い世代が「おじいさん元気？」というように、そういう家を訪問するだけでも、また違ってくると思う。それをデイケアに託したりするよりも、そっちの方が日頃の付き合いがある方が、細かいことにも気づくと思うし、子育てに関しても、近所のおじいさん、おばあさんが、子どもを面倒みてくれるとか、遊んでくれるとか。また、田んぼ、畑に連れて行って食物を育てることを教えてくれたり、簡単なところで竹とんぼの作り方を教えてくれたりとか。そういうことが、生きる力につながると思う。それは学校では教えてくれないし、都会では絶対に無理なこと。そこが強みだと思う。

そういった理想の話を育てて行くのは相当難しいと思うし、今いる高齢者が、子どもたちが飛び込んできたときに受け入れられるのか。子どもはあまり関係ないと思うが、大人側が子どもの親とその親の代のつながりをつなげて行くことが課題だと思う。

コ) 地域の中でも大人同士の信頼関係がないと、多分それが上手く機能しないと思う。子どもがいて、おじいさんおばあさんがいて、じゃあそれで上手くいけばよというのは、なかなか難しい。親と子、おじいさんおばあさんとか、地域全体でのつながりが無いと難しい。若い人たちもつながりがあるところが良いと思う人と、干渉されたくないという人がいるということですね。

ナ) どっちも選択して、どちらもアピールしている自治体を、私はあまり知らない。だか

ら、両方アピールしたらすごいと思う。

コ) 例えば、都市部は、あまり干渉がなく、行政とか、民間の保育園で支援が受けられる。

田舎は、地域の中で子育てしてくれます。というように両方出来るとすばらしいと思う。

座) コミュニティを作って、例えば、田植えシーズンに機械でやれば早いかもしれないが、手作業で植えるのを子どもに教える企画とかを、農家と話し合っって一反だけやってみようとか。と言う話を、そこからつなげていければ良いと思う。それは、市内市外の家族を募集して、そこから人と人のつながりが出来ると思う。何年もかかるとは思いますが横のつながりできていくと思う。田植えが終われば、稲の成長を見ていって、収穫、採れた米を食べるということで、食育にもつながるのではないかな。

コ) 学校でも、そのような学校農園や農作業体験とかやっていると思う。田んぼがある地域だからやっているとは思う。

市) 学校独自でやったり、地域の協力でやったり、いろいろと学校の実態によって違うが、天神山小学校だと、その地域に法人だったと思うが、「風と緑の里」という組織があって、その人たちは県内外から、農業体験をしたい人たちを募って、田んぼ・畑をやったり、そば打ちをやったりしている。

そこに天神山小学校の子どもたちが参加して、そういう方たちと農業体験するというような実例がある。

委) その情報は、どこで知ることができるのか。

市) インターネットで、「風と緑の里」と検索すればでてくると思う。

ナ) 生活クラブでやっているものか。

市) 生活クラブというものがよくわからないが、一般の人たちの集まりである。

コ) 生協・コープではないということでよいか。

市) 生協・コープではない。

委) 児童館ではないが、市役所で、月1回とか、初めは3ヶ月に1回でよいが、子どもたちをたくさん集めて、フリーマーケットやいろんなものの交換会、例えば絵本とかでもいいと思う。そこで、先に言った地域の農家の人とか、折り紙を作る先生とかいると思う。そういう人たちを置いてそういう体験できますよ、と一度に全ては無理だから、小さく形でやっていって、1階ロビーも空いているし、駐車場も空いているし、そういうところで、いろんな地域の母親が入ってきて情報交換できる場というのを一回やってみて、参加したおじいちゃんの家に行って農業体験できるとか、折り紙上手だから教えてあげるとかそういうお年寄りもいると思うし、そういう場を作ってみたらどうか。

コ) さっきの農業体験については、小田原の場合、田植えについてはほとんどの学校がやっている。それは、あくまでも学習・教育の一環でやっているのだが、先の話で大事なのは、親と一緒に来るとするのがとても大事だと思う。農業体験で子どもと農家の方がふれあうのも大事だが、そこに親と一緒にいくということが、本当のコミュニティができるのだと思う。

子どもと農家だけでは、なかなか出来ない。そこに親が行くというシステムを考えることが重要だと思う。うちのほうも反省しないといけないと感じた。

委) 話は変わるが、吉野地域では、イノシシがたくさんいて、我が家は全て電柵で囲って

いる。外に出ると、朝郵便受けに新聞を取りに行くと向こうでイノシシが見ている。特に柿や栗が実る時期は特にそう。そこで始まらないと公園で遊ぶとか、道を歩いて行くのも危険というか、車でつれて帰ってくる。孫たちもそうだが、近所の子どもたちを車に乗り合わせで帰らせたり、鹿やイノシシで子どもたちに害が無いのか心配。昼間でも出てくる。それを退治してもらったり、電柵や檻を設置してもらったり、時々駆除をやっているが、増える一方で、子どもが外で遊べない。子どもも親も少ないので、心配。

コ) 昔からその地域はそうだったのか。

委) 10年前くらいから。それまでは見たことが無かった。猟友会の人に檻を設置してもらおうとか、駆除しているが間に合わない。

委) 集まってしまっているのだろうか。

コ) よく言われるのが、里地がなくなってしまうのが、要因。昔は人が住んでいて、その先に畑をやっている、そこに人が出入りしていたので、その先までしか来なかったが、畑が荒れてきて、どんどん人が住むところまで、近づいてきてしまう。

委) 竹岡のゴルフ場が出来てから、サルがよく轢かれるようになった。その山に住んでいたサルが降りてきて轢かれたのだろうかと思っていた。

市) 私は農政を担当しているが、現状、昔から地域的に生息していたということはあるが、富津市でも豊岡といった茂ったところにしかいなかったのが、大貫地区など、どんどんいろいろな地域に進出している。

富津地域でも目撃情報があったので、学校からも「危険だからどうしたらよいか」という相談があって、業務の担当に確認したところ、「人を襲うことは無い」とは言っていたが、小さい子どもにとっては危ないと感じている。

子どもに関する安心感と鳥獣害により畑が荒らされて作れないし、まちづくりのうえで避けられないものと感じている。鳥獣を食肉として扱うとか、今まで通りの対策では、新しい大きな踏み込みをしないと足りないと感じている。

委) 車で、衝突した人が何人もいる。山から出てきて。夫も国道127号線、佐貫のトンネルを過ぎると君津だが、そこで衝突したことがある。

市) イベントのような形で狩に行く、というような形はどうか。楽しみながらという言葉は変であるが、私の知り合いが、最近猟友会の駆除の手伝いをしているが、呼ばれると嬉々として「狩に行ってくる」と、遊びに行く感覚で。私よりも年下、20代後半くらいの人だが、そういった形で、県外からそういった、狩を楽しむ人たちに来てもらうようにするとか。

ただ、地域外の良く知らない人が銃を持って歩いている状況というのは、それはそれで心配なことだと思うので、イベントの一つにできれば、人を呼べる事業につながっていくのではないかと。鳥獣害対策ということであればそういう方法も考えられるのではと思う。

一つ問題なのが、猟友会は「市の安全というより趣味」、狩猟をするという意識が強いので、市の安全のために積極的に駆除するという感じではなく、自分のタイミングで駆除するというような状況である。ハンター自体の少なさも問題だと思う。ハンターの養成も必要になってくる。

ハンティングしたものをジビエ料理・食肉とするには衛生環境、出荷施設等の整備が必要で簡単ではない。

コ) その場合は、ある程度計画的に駆除しているのか。それとも人の生活圏におりてきたときに駆除するのか。

市) その時々で駆除している。

委) 駆除の場所はどこでやっているのか。

市) イノシシ等が発見された場所で行う。

委) 街中で発見された場合はどうか。

市) 市街地では、その場で射殺するという事は無いと思うが、ただ運ぶことも出来ない生物なので、どうにか移動させて処理はそこで・・・

委) 私の地域では、昔からサルやイノシシが出るが、特に困ることも無く楽しみながら暮らしている。農家は困っていると思うが。ただ、近くの丘でハンティングをすると聞いて、飼い猫の心配をしたりしている。

どの辺りで、駆除をやっているのか。

市) 私もですね・・・

委) 今日は害獣駆除の話ではないので、子ども子育ての話に戻ったほうが良いのでは。

コ) 子どもを守るということでは害獣駆除の話も案外重要だと思う。今は自衛でしかないということですね。

委) いつ出てくるかわからないので、心配。今は孫が学校に通っているのかわいそう。

委) 夜もでるのか。

委) 夜もでるが・・・

コ) 夜は子どもが外をであるかない。

委) 私は何度も遭遇した。

コ) それでは、一つの意見ということで、提案していただければと思う。

市) 市民委員から鳥獣害について話があった旨を、農政部局に伝えておく。

コ) 幼児期の子育てについて、富津市はここが良い、ここが足りないということはあるか。

委) 病気の時に預けるところが無い。

コ) 預けるということは、病院ではなく預かり保育のことか。

委) そのとおり。

コ) 預かり保育を実施しているところは、2箇所あるとのことだったと思うが、子育て支援課が退席中ですね。

委) 特異なケースになると思うが、里親なので。

子育て支援からお話すると、里親制度では、委託している子どもが、進学しない場合は、18歳で措置解除になる。学生の間は里子という問題は特に無い。ただし、健康づくりで言うと小学4年と中学2年で、生活習慣病の検査が学校で行われる。里子たちは、育った環境が劣悪であったこともあり、痩せていても太っていても、数値が基準以上。預かっている子どもが小学校4年生のときに健康診断の数値が高かったことがあつ

た。もちろん栄養士含めて相談の機会がある。給食を含めていつでも相談できる。それは、心配している子どもを栄養士に個人相談すれば可能だと思う。ただ、その後調べる機会が中学2年まで無い。調べる場合は個人。ある時中学校2年生の検査で数値が高かったことがあった。栄養士に相談したところ、里子になる前の家庭の食育に問題があるということだった。

そこで、1点目聞きたい事は4年生と中学2年生の検査で、異常数値が出ている子どもの追跡調査はどうなっているか。

里子は、里親の家庭に住民票があるので、来月は発行されるマイナンバーに関する通知も里親家庭に送られてくる。一時保護や児童相談所にいる子どもは別に手続きが必要になる。

里親家庭であれば里子の住民票はその家庭にある。しかし、子育て支援課に相談しに行くと、県の委託なので、県に言ってくださいと言われる。

18歳で措置解除になっても、その子どもの生活が成り立たない場合は、同居というかたちで、私の手元において置く。もちろん住民票は富津市にあり、住民税等も全て払っている。

2点目として里親家庭を増やすと人口は増える。措置解除になっても経済的に困窮しているので、親を頼ることもできないので、ほとんどが独立できるまで里親家庭にいたので、人口は増える。以上のことから、人口という考慮の中に里親を入れていただきたい。

3点目は、富津市に住民票があるけれども、子どもに関して把握しているか。我が家に里子がいるということを把握しているか。里子は守秘義務があるので詳しくはいえませんが、生活環境が劣悪であるので、基本的な生活習慣から教えている。一番身近である市役所に来て、「県の委託なので、県か児童相談所に相談してください。」3年続けてきたが、その辺がもう少し改善されると里親が増えるのではないか。

コ) 里親には資格が必要か。

委) 資格というか、講習を受ける必要がある。昔は経済状態もあったが、今は里親制度も改善されて、里子にかかる経費、ほとんど食費だが基本的な生活費は出る。里親については、親戚がなる親族里親、養子縁組を目的とする里親、実子がいて養育を目的とする養育里親、虐待等受けている子ども、障害を持っている子どもを専門に養育する専門里親がある。

里親になるには県で募集が春と秋にあり、そこに申し込んで講習を受けると県から認可される。委託されるかは児童相談所次第になる。

(子育て支援課 着席)

コ) 子育て支援課が戻られたので先ほど話題にでていたことについて・・・

ナ) ちょっとすみません。里親の話だが、1つめは、人口問題からアプローチしない方がよい。3万5千人が目標だとすると、みんな人口からアプローチする議論になる。だから3万5千は目標にしないほうが良いと言っている。子どもの幸せからアプローチする以外ないと私は思う。富津市の人口のためにやるのではなくて、その子どもが幸せになるためにやるのだと思う。それは、私の何倍も思っていると思う。

今話を聞いていて、市が知らん顔、うちの管轄じゃないよ、というのは、それはまずいと思う。児童虐待があって、子どもの生命の危険を感じていても、一般の市町村は踏み込む権限が無い。「踏み込むのは児童相談所ですよ」という話になる。一方、児童相談所は一時保護施設が手一杯だと「しばらく観察しよう」と言う。そうやっているうちに子どもが亡くなったりしている。

それは権限の問題ではないだろうと思う。本当に子育てしやすいまちということであれば、権限無くても全部をやるというくらいの気概が市民に伝わらないと本当に子育てしやすいまちにはならないと思う。

委) 今日の東京新聞の千葉版で、増える虐待、受入限界と掲載されていた。

ナ) わりと最近の話だが、市川市で、児童相談所が子どもを保護施設から戻して亡くなってしまった。虐待が原因だと断定されていないが、せっかく保護したのに児童相談所が戻ってしまって、2ヶ月位で亡くなってしまった。

委) 子育てがしやすいまちと言っているのであれば、どこでもやっていることをやっても何のアピールにならない。だから一歩踏み出して行く勇気が市のほうに無いと、「私たちもやるから皆も協力して」とやってもらわないと。討議概要をチラッと見ても、「前例が無い」、「人がいない」ということに終始していて、私が言っていることに意味が無いというか、変わらないで今のままと言う感じがする。もし、それだけ市に勇気があるのか、市議会のほうに全部は出来ないけど、まずここから一つやりますから皆協力しましょう、というのがあっても良いと思う。それは一から始めることだと思う。だから、まず母親同士のコミュニティの場を作る。それだけでいいと思う。全部は無理。その場で、あそこの医者は、7時まで見てくれるとか、そういう話も出てくるだろうし、そういう場所、児童館を設置するとか。子どもの虐待、貧困とか親の問題はいっぱいある。全てつながっている。この前税金を払わない親がいるという話も出てきた。払っても払わない。そういう人は給食費も払わない。市役所の中に全ての相談に乗ってくれる場所があってもいいと思う。何課行け、何課行けではなくて。国も今度そうすると言っていた。

ナ) 市には、子どものトータル窓口はあるのか。

コ) 子育て支援課に行けば、だいたい相談を受け付けるということか。

委) 先ほどの話で受け付けていないようだったが。

市) 保育だったら、子育て支援課。教育関係であれば学校教育課、子どもの健康診断は健康づくり課。ということではなく、トータルで話を伺う課があるかということか。

委) 全部つながっていると思う。親がしっかりしている子どもだったら、ほっといても親がやる。だけど親がしっかりしていない子どもは、学校の先生も見えてくれないと、この間の暴力事件も、退職した先生に聞いたら、そんな数じゃない。一件ずつしか残っていないなんていうことはありえない。と言っていた。

コ) 子育てに関する一元的な窓口はあるか。

市) 今の現状で言うと、理想としてはそのように考えて、市長もそのように考えている。

子育て支援課は福祉の部門であるため、以前は1階にあったが、出来るだけ窓口を一本化するために、栄養士の関係の健康づくり課の隣に移動して来た。これにより、乳幼児



に関する相談であれば、健康づくり課の保健師と連携をとって、市民を移動させずに保健師を隣の課から連れてくるなど、そのような形で対応しており、子育て支援課には、相談員が2名おり、家庭相談、育児関係、経済的な家庭、母子父子家庭であれば、貸付に関する相談に乗っている。

ナ) ある程度はやっているようだが、子どものトータルな窓口というのは、市の仕事で無いこと、市の権限でないことも全部受けることがポイント。「市の権限でないこともどうぞ相談してください。」ということがないと、トータルな窓口にはならない。そういう窓口を作ったら、とてもアピールになると思う。学校の事だって、教育委員会に遠慮せず、「学校の先生がおかしい」ということも全部受ける。そういうトータルなところがあつたらすごく良いと思う。

委) 市議会議員に一人700万円払っているのだから、それができれば外部の有資格者を雇うことができると思う。

市) 私は以前、障害者福祉の部署にいたが、その当時、今もやっていると思うがなんでも聞いてくださいという相談を設けていて、精神保健福祉士という専門職がいて、その人が窓口で、身体障害に関することであれば、身体障害の担当者と2人で、公民館等に出かけて、なんでも聞いて、自分たちで解決策を考えたり関係機関とのつなげたり、そういうことをしている部署もある。やりかたも知っていると思うので、そういったスキルを共有できたらよいことだと感じている。

コ) 子育てだったら、ここに行けばいろいろと聞いてくれて、次へ必要があればつなげてくれる。そういう窓口があれば良いということですね。

ナ) 精神保健福祉士は市の職員か。

市) 市の職員である。市の広報になんでも相談といった形で、掲載して、悩んでいる方が来たら対応する。市の職員が、その人は自発的にやっていた。

ナ) その辺りがポイントで、外から専門家を呼ぶのも良いが、外部の人に任せてOKとなってしまうと、それはあまり力を持たない。やはり、正規の市の職員が本気でやるという姿勢でないと駄目である。

繰り返しになるが、市の権限でないことも市の職員がやることが重要である。

コ) ナビゲーターの意見と少し違う意見になるかもしれないが。子育てについては、経験者が大勢いるので、その人たちが経験に基づいてアドバイスすることが大事だと思う。そういったNPOや団体はあるのか。

市) 団体が無いわけではない。市内では、公立・民間も含めて11園あるが、そういう相談も受け付けているし、民間の子育て支援センターについても、相談や子どもの遊び場として設けている。

ナ) コーディネーターと違う話になるが、民間であってもプロでないと駄目である。素人が自分の子育ての経験でアドバイスするのは大変危険である。自分の経験が全てになってしまうからである。私が過去に、助産師に出産育児の教室をやってもらったときに、助産師は民間、外にお願いした。それまでは、市の内部の正規職員の保健師がやっていた。助産師が言ったのは「保健師がやると自分の出産経験に引っ張られる。助産師から見ると大変危ないアドバイスをしている。出産経験は、女性にとって大きいから、自分

の経験が全てになってアドバイスするが、きわめて危ない。保健師がやるなら、出産経験のない保健師が、教科書通りにやったほうが、助産師から見ていて安心。」

民間がやるのは良いが、プロの民間を育てることが大事だと思う。

コ) そういった人たちを育てるのも、行政のアプローチの一つとしてあると思う。

委) 公民館でやっている、市の講座があるが、学習指導員という学校の先生の人がついている。いい大人がなんかやるのに。公民館の職員がいる、それなのになぜ学習指導員がいるのか。それなら子育てに経費を回せばよい。

市) さきほどのナビゲーターの話ではないが、その講座はプロが見た方が良い内容というものではないということか。

委) いいおばあちゃんたちが、やっているんだから。そんなのにお金を払うのだったら、子育てに回したらどうか。

ナ) 学校の先生？

委) 元学校の先生で、この間は学校の生徒が、あれもこれも全部参加しているよと言っていた。暇だから、天下りも終わったし、と話しているのを聞いてすぐ頭にきた。

ナ) 私の勝手なつぶやきだが、市民のためじゃなくて、教職員の再就職先のためになっていることが世の中にはいっぱいありますよね。

委) いい大人が、折り紙教室をやっている、そこになんで学習指導員が必要なのか、理解できない。ある時間いたら、元校長先生が学習指導員で来ているとのことだった。

ナ) 税金の使い方を良く考える必要がある。

コ) 生涯学習の担当にこういった意見があったことを伝えていただきたい。

市) 私の個人的意見ですが、私の親が教員で、退職後学習指導員をやりたいと言っていた。

私は、お金をもらわなくても趣味でやればいいのになと思った。仕事じゃないとそういうことがやれないという風潮があるが、独自で、ボランティアでやって地域のつながりになっていけば、生きがいになると思う。

ナ) 役所の仕事をボランティアでやるということではなくて、民間でやればよいということだと思う。

市) お金じゃなくて仕事じゃなければやれないと思っているかもしれないが・・・

市) 地域に住んでいる人たちが、趣味の発表場みたいな形で一緒に教えることができる仕組みが良いと思う。

委) 教える人はいる。そうではなく、わざわざ学習指導員がいる。

市) そういう教室への関わり方としては、最初から学習指導員を置くという考え方をやめて、「地域で活躍できる趣味をお持ちの方はいませんか。」という携わり方くらいが良いということですね。

委) 学習指導員はいらない。ただ習い事をするためだけに必要だと思うか。

市) 専門性を要するものなら、そういう場合もありえるとは思っている。

委) 先生がいるから、専門性については問題ない。学習指導員は、参加者の出欠をとったり、なんかかやをやっている。公民館の職員もいるので必要ない。

座) 細かい内容になってしまっているの、一度大きな内容について話したい。

市役所の仕組みがわからないので、お聞きしたい。先ほど「食品添加物のことをホー

ムページに乗せたらどうか。」という小さい話について、やろうと思えばすぐ出来ると思う。やる気になれば。でも返事をしなかった。「前向きに検討します。」という返事もなく、そこがうやむやのまま終わっているのは、全体の会もそうだが、本当にできるのかと思う。市のよさを生かして富津市を良くしていくのであれば、一つ一つ改善していても良いのではないか。改善しなくても検討することで意味合いが出てくるのではないか。そういうことをしないと、全体会や分科会で話していること、こういう方向で行きましょうとなったとしても、市議会で決まったことが優先されたりすると、私たちのやっていることは何なんだろう、とってしまう。

先ほどの子ども相談窓口一元化についても、良い返事がなかった。小さいことだと思うので、やろうと思えば多分できるのではないか。できないとしても前向きな返事が・・・  
委) 権限が無い人が出席しているのか。

座) それはしかたないと思うが、ここでの決定はできないとしても、持ち帰って検討する。

という前向きな発言があっても良いのではないかと思うが、難しいのか。

コ) 窓口一元化は、ここで「やります」と答えることは難しいと思う。組織の問題もあると思うので。

委) それでは、次回までにどういう議論がされて、どういう結論になったかを教えてもらいたい。

コ) 当然、ここでの議論はすべての各担当課に伝えられると思いますので、これから検討していくわけですよ。その中で、結論は出してくるのか。まだ検討段階と言う形で来るのかは分からないが。食品添加物は、難しい話ではなく、方法論としてどうやってやるかということについては、すぐ浮かばないと思うが、やっていただけるよう前向きに検討してもらえるとということによいか。

市) 言葉足らずであったかもしれないが、前向きに検討していきたいと思う。

ナ) ここで市の答えを引き出そうというわけではなく、この分科会の委員の総意で、食品添加物の公表と子育ての一元化窓口はやるってことを提案したらどうか。

委) それについて回答をお願いします。

ナ) それでもできないのであれば、「ふざけるな」という話ですよ。

委) 一本化の窓口は、先ほどの病院、夜間救急医療の話で、「この病院に行けばいい。」という結論みたいなものがほしい。

委) ここに書いてある。

委) そこに、行けば大丈夫。市が決めてあるから、夜間診療は、どこそこの、富津市内の病院に行きなさい。とするととても安心できる。

コ) 夜間に子どもが、具合が悪くなったのでどうしたらよいか、という相談窓口はどこになるか。

市) 先ほども説明したが、君津中央病院に電話してもらえれば、24時間対応はできる。

コ) そこに電話して、内容によっては来なさいとか・・・

市) 夜間自体については、夜やっていますし、二次救急もある。ただ、遠くから来ている方はわからないかもしれないが、4市で30万の都市なので、4市の中で回り番になっている。それは公表している。ただ、場所によっては袖ヶ浦市とか、富津市から遠いとこ

ろになってしまう。

委) 5千円ください。と書いてあったら、がっかりしてしまう。

座) 安心できる救急というところにはない。

委) ないですね。私は委託をしている身で、若くて違う。自分のかかりつけの医者に頼んでいる。育った環境も劣悪だったので、いつ何がおきるか分からないので、かかりつけの医者にご相談している。

小学校に通わせているのですが、インターネットで探せば出てくることはたくさんあるが、困ったときにはここに相談とかの情報を、保育園、幼稚園、小中学校の学校関係で子ども達に印刷物を持たせてもらえれば、なお安心できる。今の若い親はインターネットに精通しているので、良いかもしれないが、私みたいになると面倒なので、だから、目で見えるものが確かな情報。

先ほど座長が話したような、農業体験とか自然学校とか、市民のイベントとかこどもの国のチケットなど、学校から子どもたちが持ってくる。それで、情報を知る。しかし、残念ながら市からそういったものは届かない。参加するしないは別として、こういう行事があると知らせる。子育てについても、市役所に遊ばせる場があって、室内にも本や遊具があって、そこに常時いる人が相談に乗ってくれる。給食をまったく食べない子どもがいるそうで、食生活の問題だと思うが、学校の先生に相談しても一向によくならない。学童のおやつまで一切食べない。他人事ながら心配。

委) 先ほど言った、コミュニティの場を3ヶ月に1度でいいから、とりあえず開いてみようという気は無いかな。市役所でも良いと思う。最初はフリーマーケットでも良いと思う。子ども服やおもちゃも大きくなるといらなくなると思う。

コ) 2回目の会議のとき、担当課が出席していなかったので説明すると、2回目の会議のときに、子育て世代の人がお互いにコミュニケーションを図る場がない。公園に行ってもだれもいないので、皆君津に行くという話があった。では、市内で子育て世代の人たちがどうやってコミュニケーションを作ることができるのか。という議論があった。その話がベースにないので、少し分かりづらいところがあったかと思うが、そういう話が最初にあった。その話からどういう場に作ったらいいかを話していたと思う。

そのときは、公園のプロデュースを子育て世代にまかせて、その人たちがこういう公園にしたいんだということを皆で考えて、公園作りをして、そこに皆が集まったらよいのではないか。という意見が出ていた。

その中で、子育て世代のコミュニケーションを作る場を、何らかの形で行政がセットしてやる必要があるのではないか、という流れで今の話になった。

ナ) 野外の公園を子育て世代に提供して、子育て世代の皆さんで自由にプロデュースしてくださいというものを一つ作る。室内で子どもが遊べるスペースも作って、そこに子どもことは全部受けるという窓口を作る。そうすれば絵が見えてくる

全部を受けるということは、その職員が全部やるということではなく、いろいろな所につないでいくということ。繰り返し言うが、つなぐ先が市役所にもないものも全部受けるということ。

私の市のことを言っても仕方がないが、我孫子市では、児童虐待で子どもの命に関わる

と判断したら、踏み込む権限がなくても、不法侵入になっても、踏み込むというルールを作っている。違法でもやると言っていることであるから公表はしていないが、内部のルールとして定めている。踏み込むときは市長が先頭に立って突っ込むとしている。危険事案は全て事前に市長に報告しておいて、いざとなったら、市長が先頭に立って突っ込む。そこで、逮捕されてもかまわない。そこに警察がきたら、子どもは助かる。やろうと思えばだいたい出来る、何だって。

委) 昔松戸市に何でもやる課があった。

ナ) 今の時代では、功罪あると思う。

委) それの子ども版というか。あると安堵感がある。

コ) 孤立させないことが、重要ということですね。

座) その告知の方法ですね。やってはいるけど知らなかったでは・・・

委) 先の話で出た、「風と緑の里」。それは民間ということで、役所と関係ない。そういった役所と関係ないことでも、PRできるようにするとか。私はインターネットあまり使わないので、初めて知ったが、広報ふつつなら私は必ず見るので「この地域でこういうことをやっています。」ということが載るとうれしい。難しいのか。広報ふつつでなくても、パンフレットやチラシとか。

市) 「風と緑の里」が、どのような意図で農業体験塾をやっているか不明なため、それがよいかどうか判断はできない。

委) たしかに、PRしたいかどうかはわからない。

委) 花火大会も民間でやって成功している。やる気になれば皆もすると思う。

委) 今回初めての参加で、今までの会議の内容が今の段階でまだ把握できていない。私は高校3年生の娘がいる。だから、保育園、小中学校についてはそういう経験をしているが、男の子を育てたことがないので、男の子の育児はわからないが、親にいけないこと学校に言えないこと、子どもによって家庭環境の違いはあるかもしれないが、親子のコミュニケーションが取りづらい世の中というか。私の家も共働きだが、家には私の両親が住んでいるので、ただいまというとお帰りと返す人がいる。そういった家庭は少ないのではないかと。共働きの家庭は、保育所に預けざるを得ないという環境の方が多いのではないか。

私の娘が保育所に通っているときに、プールがあり、手足口病に必ずなる子どもがいるが、そのとき、手足口病にかかっていると分かっている子どもの親が、仕事で保育所に預けなければならないときに、預ける。親は仕事だからどうしても預かってもらいたくて、風邪で熱があれば一応隔離するが、手足口病は言わなければ分からないので、保育所の先生は分からずプールに入れて、同じプールに入った子どもは、全員必ずうつる。だけど親は仕事を休むわけにはいかない。手足口病であることを伝えると預かってもらえないので、伝えない。

そういう状況の家庭はたくさんあると思う。そういうところのフォローを保育所の先生だけでなく、保育所の先生も足りないと思うし、保育園も足りない。地域によってニーズが少ないので、縮小される場所もあるかもしれない。外にある役所の施設職員と、中の役所職員とのパイプ太くしてもらいたい。

役所の方々は一生懸命やっていると思うし、努力もされているとは思いますが、それが全部伝わっているかといえば、おおきな疑問。

夜間の医療に関しても、「今はこうですから。」と言われても、納得はしてもいざ、自分の家族や自身が病気になったときに、私も具合が悪いときに夜間の救急外来に行ったことがあって、2時間待たされた挙句、専門ではありませんので、と言われ薬だけもらって帰ってきた。一晩苦しんで、翌日専門医にかかった。だから、もうちょっと小児科の専門病院がない。行くしかないとなったらそれだけではなくて、市が、病院を作って小児科を開設して、こちらに住んでもらえませんか。とどこかにアピールする努力をしてもらいたい。しているのかもしれないが、今以上にアピールしてもらいたい。

もうちょっと環境的に、子どもが住みやすい。病気は年齢が関係ないので、皆が安心して暮らせるように病院を増やす。そういうことを逆の立場から考えてもらえれば、私はもっと今まで以上に市と市民が協力できることがあるのではないかと思います。

先ほどの話を聞いていても、広報ふつつにしても、月1回発行しているが、それだけでは、読む人読まない人がいる。それだけで、アピールしているとは私は違うと思う。もっといろんなところでアピールできると思う。

シルバーウィーク中に市として何かイベントやりましたか。との話のときに、馬だし祭りの声かけをしましたと言っていました。それだけでないかと。

それをすぐにやれと言っているわけではないが、もうちょっと歩み寄ってお互いに歩み寄ってやった方が、いいものがたくさん出てくるのではないかと私は感じる。

私の経験でも、学校の先生以外でも相談できる場、親以外にも相談できる人は必要。そういう場でいろんな人とコミュニケーションがとれて、悩んだときにその人に相談に行ける環境を作っていたほうが良いと思う。

私は駅近くに住んでいるが、夜中に大騒ぎしている声も聞こえる。私はお互いに踏み込んだところでやったほうが良いと思う。

委) 分からないときに気軽に相談できる場所があればいい。南房総市の千倉支部では、皆が出てきて、わからないおばあちゃんがいると隣に座って書くのを教えてくれる。誰にじゃないといけないではない。入ったらみんな出てくる。一度研修にいったらどうか。

コ) 時間も迫ってきているので、先ほど子育て支援の関係で小児医療費助成の話が出ていたが、今、富津市の小児医療費助成はどうなっているか。

市) 富津市では、診療費については中学校3年生まで200円の自己負担、所得の状況によっては無料。調剤については、無料。県の補助金としては300円となっているが、富津市では、200円として100円市が上乗せして助成している。

コ) 最近では、どの市町村も扶助費が膨らみ、非常に財政状況が厳しい、その中で小児医療費助成がコンビニ受診を助長しているという見方を、どこも持っている。富津市の考え方としてはどうか。

市) 数字としてどのくらいというわけではないが、子ども子育て支援計画を作るにあたってのニーズ調査の中で、意見として200円の自己負担をゼロにしてほしいという意見もあるが、中には200円で受診できることによって、必要性が低いのに来ている人が多いので、本当に必要としている子どもがいるのに待たされてしまう。コンビニ受診という

ようなことを意見として挙げている方も何名かいた。安くすれば良い、というものではないという意見もある。

コ) 本当に困っている人にちゃんと助成してあげられる制度があればその方が良いというように感じる。

市) 考え方として、「手間はかかるが受診すると、無料で薬がもらえる」ことも、そういう人もいないとは言えない。

ナ) 本当に医療費負担が適切な医療を受けることを妨げているのだとしたら、助成を各市で競争するような問題ではなく、健康保険制度をきちんと直さないといけないということになる。

市) そうだと思います。

ナ) その議論をせずに、人気取り合戦で補助金を上げていくのは、子どもの健康や命を守ることに本当の意味ではつながらない。

市) そう思う。しかし、どうしても、隣の君津市が自己負担ゼロでやっているのだから、それを知った市民は君津市と同じで、ゼロにしてほしいという意見が多くなる。

コ) 平らにゼロにするのではなく、本当に医療に困っている人にもっと支援してあげる制度の方が、本来安心だと思う。そういう考え方もあると思う。

よく検討してもらえればと思う。

あと、よくアンケートを実施すると、受益者とか関係者を対象に実施することが多いと思うが、受益者ではない人の意見も重要。例えば小児医療にしても受益者は、病院を利用していない人や子どもがいない人が、受益者の分の医療費を払っているという認識がないので、これからの税金というのは、そういう意識で、使い方を考えていかないと財政がなりたない。そういったところも考えていただきたい。

市) アンケートの話がでたので、前回の討議において未回答であった、結婚すると出て行ってしまうことに対する、アンケートに関して職業別の集計をしているか、という質問について、アンケートの質問項目の中に職業に関する質問がないため、データが存在しないことを回答する。

コ) 何か言い残したことはあるか。

委) 先ほどまでの話とまったく関係ないが、原付自転車のナンバーにふつつんが入っていると嬉しいと娘が言っていたので、検討して頂きたいと思う。

市) 検討する。

コ) 以上とさせていただきます。今日の改善提案シートについて、皆さんいろいろご意見が出たので、皆さん記入していただきたいと思う。

座) 改善提案シートなんですが、家に帰った後、思いついたことがあった。

コ) 白紙もらって次回提出も可能ということでよいか。

市) はい、本日書ききれない分があれば、後日市役所に送ってもらえれば、構想日本に随時送っている。書ききれない分があれば、予備を持ち帰りいただき送ってもらいたい。

ナ) 2つにエリアを分けるというのも、子ども全体の窓口や、学校給食の食品添加物の公

表についても、皆さんいっせいに書いた方がよいのではないかと。それぞれ自分のものを書いてもらえればよいと思うが、皆でまとまった意見は、誰かが書くというより、皆で書いた方が、インパクトがあるのではないかと。

コ) メールで提出することはできるのか。

市) 今回の開催通知に、企画課のメールアドレスとQRコードをお知らせしているので、そちらに送信してもらえれば、提案シートの様式に整えて、構想日本に提供する。

コ) 次回だと、その間に構想日本に届かないので早めをお願いします。

ナ) 率直に思うのだが、市長、副市長が来て、議論に加わって、一緒に議論をすればいい。

子ども全体の窓口が必要だという意見も、後でペーパーで項目として知ると、その議論の場にいるのとでは大きく違う。市長、副市長にとって、得になることだと思う。ご本人の考え方も有るとは思うが。

コ) 元市長のアドバイスとしての発言ですね。

コ) それでは、改善提案シートの記入、提出が終わった方から解散ということでお願いします。今日も一日ありがとうございました。

市) 次回は、10月16日金曜日、午後6時30分からとなりますので、皆様よろしくお願ひします。

市) 先ほど、子育て支援事業計画と26年度に5回会議を開催していて、その会議録を配布したが、時間の都合から、それぞれの会議の資料まで用意することが難しかったため、会議録のみ配布している。環境が整っていれば、ホームページで公開しているので、確認していただければと思う。

もしホームページの閲覧等が出来ない場合は、希望してもらえれば郵送する。

座) この子ども子育て会議の委員は一般市民なのか。

市) 委員は、子ども子育て支援事業計画の60ページに委員の構成がある。

座) 子どもの保護者は、どういう選定方法か。

市) 保育所は公立で7園、私立で4園。それぞれ7つの園から、代表を選んでもらっている。

座) 保護者会の代表が選ばれるということか。

市) 保護者会の長が、代表者とはかぎらない。平日に開催しているため、会議に出席できる都合のつく方をお願いしている。

コ) 今日は就学前を中心に意見をいただいたが、次回は、就学前に併せて、小中学校、義務教育期を含めた内容で議論したいと思う。

#### 【質問・要望事項】

- ・子ども子育て会議委員の次回出席の調整
- ・学校給食における食品添加物の公表
- ・子育て窓口の一元化の窓口の検討
- ・原動機付自転車のふつつん入りご当地ナンバーの検討



## 第4回市民委員会 第4分科会 討議概要

平成27年9月23日 午後2時45分～午後5時 場所：504会議室

出席委員：14人（全20人）

コーディネーター：石渡秀朗 ナビゲーター：土屋龍一郎（欠席）

事務局：企画課 牧野、高橋

農林水産課 庄司、茂木、川崎、棟方

商工観光課 藤平、牧野

【テーマ】 産業・雇用 ～市の産業・仕事を創る～

コ) 今日以降の会議については、10月16日に第5回、11月8日に第6回、11月29日に第7回、1月下旬に第8回と開催予定となっており、分科会のとりまとめをするのが11月8日の第6回の会議となっている。そのため、第5回までの会議については意見の発散で、色々な方の様々な意見を伺いたい。その間にも事務局、構想日本でも意見を取りまとめていくので、まだまだ出しきれていない意見を頂戴したい。

### 人口ビジョン

コ) 前回の討議では将来展望人口3万5千人という数字だけで、そのイメージがよくわからないという意見が多かった。そのような中、人口が多ければ税収も増え、商売が成り立つにはある程度の人口が必要だという人口が減ることを危惧する意見と、人口が減ってもやっていけるような政策を行い、住みやすいまちであればいいのではないかという意見が大きく分けてあった。

### 前回質問事項について

市) 人口3万5千人のまちについてのイメージ材料については、中学校区別の人口推計を本日配ったが、全体的に人口は減るが年少人口は2040年であまり変わらない。現在のところこれ以上詳しい（小学校区単位など）人口推計の資料はない。

未婚率については、富津市は近隣に比べ高い数値であるが、他市と比べなぜ高いかの分析まではできていない。未婚者が結婚しない理由として、結婚する必要性を感じないなど結婚に消極的な意見が多かったことも未婚率が高い理由と考えられる。

### 3万5千人のまちのイメージについて

委) 昭和46年に3町合併して富津市になったが、3町時代の人口がわかれば教えてほしい。

委) 例えば市内の町単位でここからここまでの範囲が3万5千人かがわかれば我々もイメージしやすく、それ以外の人がいなくなると考えるとどれだけ減るかの認識材料にもなる。

市) 平成 26 年度の行政区別人口の統計資料によると、富津地区と大佐和地区を足すとだいたい 3 万 5 千人くらいなので、天羽地区に現在住んでいる人と同じ位の人口が将来いなくなることになる。

コ) 天羽地区以外の中学校、小学校数は。

市) 中学校が 3 校 (全 5 校)、小学校が ~~5~~ 校 6 校訂正 (全 11 校)。

コ) 今の富津、大佐和地区の学校数があれば将来の児童・生徒の数を学校で教育するには規模としては足りることになる。

#### 人口が減少することについて

コ) 前回、人口が減って何が悪いのかという意見があったが、その考えの根本には何があるか。

委) 例えば、この先日本の産業が衰退していった場合、どういう政策をとればいいのか考えたが、都市部の人口を地域に分散し、田舎でも暮らせるよう国などがバックアップして農業に力を入れていけばいいと思う。そして田舎を武器に、地域に付加価値を与えて生産物や商品を外国に輸出できれば日本はやっていけるという思いが根本にあったため、人口が減ってもそれなりにやっていけると思った。

コ) 人口ビジョンは数を求められているが、今の意見は人口の話ではなく、魅力のある田舎だといっている。ではその魅力ある田舎とは何かを皆で共有しなければ人口ビジョンや総合戦略の話に結びつかないと思う。田舎を武器にすることや田舎の付加価値を PR していくということは 1 つの方向性としてこの分科会でも重要なキーワードになると思う。

#### 出生率について

委) 多くの先進国の出生率が減っている中、出生率を 2.1 にするのは難しいのでは。

委) 出生率 2.1 というのは日本の自治体別でもトップクラスの数値である。

委) その土地が暮らしやすく、田舎に魅力を感じる若者がきてくれれば出生率 2.1 も不可能ではないと思う。価値をわざわざつくりださなくても、そこに価値を見出せる人にきてもらえばいい。

委) 今、子育てには塾などお金がかかる。学校を通じて、放課後に学習指導が受けられたり、スポーツをやるにもお金のかかるチームではなく、地域でできるようにするなどして、子育てにお金がかからない環境にできれば子どもの数は増えると思う。

委) 金銭的な負荷が大きく、子どもを産みたくても産めない人がたくさんいると思う。

委) 仕事上、多くのお客を見ているが、若い人が子どもを 3、4 人連れて歩いているのは今では珍しくないと思う。自分の子どももそうだが今の若い人は (意識のうえでは) 子どもを多く生みたいと思っているように感じるので出生率を 2.1 に上げることは決して無理ではないと思う。

#### 将来人口 3 万 5 千人について

- 委) 人口が減ったときに、ある程度集約をする必要がある。新聞で見たが、自分の家そのままだとしておいて、町中や学校の近くの空き家を利用して住み、そこから通学をして週末は自分の家に帰るなどの2地域居住型の検討は富津市ではできないか。
- 委) 将来人口を3万5千人にするには各家庭がそのまま定住して、なおかつ子どもを2人以上産んでもらうようにもっていくための何かしらの戦略があってはじめて3万5千人という数字が出るのでは。
- コ) そのとおりであり、鶏が先か卵が先かの議論になってしまうが、将来人口について、国は推計を上回る数値を目標として持たせ、その差を政策で埋めるように進めようとしている。順序でいくと、人口ビジョン、つまり何人の人口にするかが先で推計人口数とのギャップをどうやって埋めるかを総合戦略で考えていくというのが大きな流れとなっている。そのため、まずは人口3万5千人のまちをイメージして、それに向けてどういうことがやれるのかという議論をさせるのが国のねらいであり、できるかどうかはわからないがそういう視点で考えていただきたい。
- 委) データをみると富津市は圧倒的に女性の流出が多い。女性の流出を止めることと、女性が富津市に来るようにしなければいけないと思う。
- 委) 農家の実態は、ただ米を作っているだけでは生活は成り立たない状況にある。そういう状況を見ている多くの子ども世代は富津市を出ていっている。
- 委) 人口3万5千人を目標とするのか。
- コ) 目標とすべきかは議論すべきことであり、5千人増やす政策が打てるかも今の段階ではわからないので、目標とすべきかどうかの答えは行政ではまだ持っていない。
- 委) 目標は別に達成できなくても努力すればいいのでは。目標がなければなんにもできないと思う。
- 委) 子育て世代を呼ぶための住む場所はあるのか。家も土地もなければ住んでくれと言っても来ない。高速IC付近に住宅地を造成すれば都内のベッドタウンにもなる。
- 委) 区画整理されたベッドタウンとそこから仕事だけでなく日常生活における公共交通が充実していれば、他市から富津に働きに来ている人の移住だけでなく、他市に働きにいらっている人で富津から通う人も増えると思う。
- 委) 富津市の北側をベッドタウン、南側を里山と地域性を活かして区分けすればよいのでは。
- 委) 親の面倒を見るなど、家庭の事情で富津市に帰ってくる人もいるので、そういう人を大切にしながらまた出て行かないようにする方策も考えてもいいのでは。
- コ) 市はUターン政策を打っているか。
- 市) ない。
- 委) JRが複線になっている君津でも人口は減っているのに、交通の便が悪い富津市のベッドタウン化は難しいのでは。
- 委) 富津地区には企業の社員寮が増えており、その人達をターゲットに市内の戸建て住宅に移ってもらえるようにできれば、富津に定住してくれるのではないかと。私も

2時間かけて都内に通勤しているが、富津に住んで一番よかったのは住宅取得の価格が非常に安かったこと。若い人にも魅力があるのではないかと思う。

座長) 年齢階層別人口ピラミッドを見ると、子育て世代の人口が他の世代の人口に比べ減っているなかで子どもを増やし、人口を3万5千人にすることは難しいが、努力目標として数値を設定することは大事だと思った。富津市がどうしたら人に見てもらえるかは観光という面が大きいと思う。名前が知られてくればベッドタウンなど徐々にできるようになる可能性もあるので、まずは観光を切り口に富津市をPRしていくことが大事なことかなと思う。

#### 【質問・要望事項】

- ・3町時代の人口
- ・類似団体（人口・面積）

#### 改善提案シート

コ) 前回提出いただいた改善提案シートをまとめてあるので、そこから更にご意見をいただきたい。

##### (1) 地域

コ) 空き家対策法に基づく行政の対応について、次回報告願いたい。

コ) 就労の場として魅力のある産業を考えていくとしたら、例えば田舎の魅力として棚田を活用し、農薬を使わないという地域のルールを作り、都会から農業を志す人を集めるなどということは具現化できるか。

市) 都会から農業をしたいという方は数名ではあるが移住している。

コ) 市として政策があるのか。

市) 市として具体的な支援は特にない。

コ) 例えば学生が農業をやるためここに移り住んだらすぐ農業をできるのか。

市) 農家要件があり、5反歩（約5,000㎡）以上の土地（借地可）を耕作する権利を持てば農家として農業ができる。

委) 魅力ある農業として、富津産の果物などを売り出せないか。

委) 君津にJAの直売所があり、そこに富津の生産者も出品している。富津にもそういった施設を作ればわざわざ君津まで行かずによくなる。近くに直売所があれば、生産者はやりがいを感じるだろうし、消費者も喜ぶと思う。

委) 漁業でも行政と漁協が協力して直売店などを作ればきっとお客は来ると思う。

コ) 直売店については行政ではどんなことができそうか。

市) 数年前に市でも直売所を作ることを検討したが、施設建設に係る国の補助金はあるが半分は市負担ということもあり、また、市内や近隣にある民間の直売所で出品

可能であることから、費用対効果を考えたところ当時は様子を見るという結果となった。

富津にはメロンやトマトなどの特産品はあるが、数がまとまらないという問題もある。

## (2) 暮らし

コ) 一般廃棄物（ごみ袋）は有料か。

市) 有料である。

委) 不法投棄監視委員をしているが、ほとんどが家庭ごみで、人が行かないところや見えにくいところに多くある。

コ) 土地の有効活用について、以前も話に出たが農地転用の可能性についてはどうか。

委) 区画整理されている場所や休耕田であっても、企業が使いたい場合は、条件付きで特例で使えるようにする仕組みがあれば、土地を有効活用できると思う。

委) 市内に3つも高速 IC があるのは珍しく、例えば田んぼを無理やりやっている人ややらざる得ない人もおり、そういう人達の意見を汲み取ってその場所に倉庫などをつくり物流の拠点にすれば新たな需要が生まれるかもしれない。

コ) 農地の規制に関しては、県が権限をもっているということだったが、市で何かできることはないか。

市) 農地転用に関しては、農地法というものがかなり厳しくて市独自でやることは難しく、本当に具体的な計画がないと転用はできない。

コ) 具体的な計画とは市の計画か。

市) 市の大きな計画の中の位置づけも必要であり、更にその施設の詳細な計画も必要。

コ) 売却可能な公共用地については2か所のみか。

市) 今現在すぐに売りに出せるのが2か所であり、他の用地は境界の確定が必要などという理由で処分できる状態ではない。

コ) 普通財産の処分計画は将来的にあるのか。普通財産の適正管理計画などあったら次回お示しいただきたい。

## (3) 結婚・子育て

コ) 人口ビジョンの出生率のところで、教育環境としてお金のかからない整備が必要だとか、子どもを作りたいという意識はあるといった話が出たので、人口の切り口からまとめていきたいと思う。

委) 富津市には独身男性が多く、独りで買い物をしている人をよく見かける。ただ、地元の独身女性も多くいるので出会いの場があればいいなと思う。

## (4) にぎわい・魅力

委) 観光情報は市より観光協会のホームページに多く載っているが、市のホームページから観光協会のページへのリンクが見つけれなかったので、PR のためにも見や

すい場所にリンクがあったほうがいいと思う。

委) 海堡井やはかりめ井まつりが開催していても、それぞれの店が遠くて行く気にならない。期間限定でも一か所に集めて開催し、食べくらべなどできるイベントを企画すれば集客PRになると思う。

(5) 人口、(6) 仕事、(7) 学校・教育

コ) 今日の議論のなかで話が出たものはまとめていきたい。

(8) 情報発信

コ) 今日の議論で観光をツールに市の知名度をあげていきたいという話があった。

(9) 産業

コ) 企業誘致、土地の有効活用で意見が出ているので議論を深めていきたい。

(10) 高齢者

コ) 日本版 CCRC の話が以前出たが、補助金が活用できるので次回に概要を示したうえで議論していきたい。

座長) 転出者アンケートの資料をもらい、市のイメージや認知度が低いところが気になった。馬だし祭りが先日開催されたが、非常に珍しい形態の祭りで今年は多くの人が集まった。情報発信ツールが多様化している今、それを活用して富津市に人を集めていきたいと思った。

#### 【質問・要望事項】

- ・ 空き家対策
- ・ 転出者の地区別人数
- ・ 普通財産の処分計画
- ・ 観光協会サイトへのリンク
- ・ 日本版 CCRC 概要